# 第1期中期目標期間 業務実績報告書(暫定版)

(平成21年4月1日~平成26年3月31日)

# 平成25年2月



# 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

(注) 本報告書は、平成24年9月まで(一部直近データ)の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

# 目 次

T	当該中期目標期間における業務実績報告
1	当成中州日宗州団にのける未分大順刊日

1	対象期間	]	1
2	業務実績全	:般 •••••••	1
	(1)機材	構全体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(2)総介	合 病 院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	(3) 23	ころの医療センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	(4) こと	ごも病院 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
3	項目別実績	<u> </u>	43
	中期計画	第1-1医療の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43
	"	第1-2医療に関する調査及び研究・・・・・・・・・・・	51
	"	第1-3医療に関する技術者の研修・・・・・・・・・・	54
	"	第1-4医療に関する地域への支援・・・・・・・・・・	55
	"	第1-5災害等における医療救護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
	"	第1-6中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成・	60
	"	第 $2-1$ 簡素で効率的な組織づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	63
	IJ	第2-2効率的な業務運営の実現・・・・・・・・・・・・	63
	IJ	第2-3事務部門の生産性の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	IJ	第2-4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成・・・・・・	65
	IJ	第2-5就労環境の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
	IJ	第3 予算(人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画・・	68
(参考)	用語解説		69

# 【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院



# 🤼 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

### ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医 療施策として求められる高度又は特殊な医療の提 供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医 療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及 び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

### 当該中期目標期間における業務実績報告

#### 1 対象期間

平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間

#### 2 業務実績全般

#### (1)機構全体

#### ア総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を発揮した病院経営に取り組んでいる。

第1期中期目標期間(以下「今期」という。)の経営状況(5年間累計、3病院計税込)は、入院では、総合病院で延患者数が今期の各年度中期計画累計(以下「中期累計」という。)を上回るほか、H22、H24の診療報酬改定による効果及び積極的な新規施設基準の取得等により、3病院とも単価が中期累計を上回る見込みである。また、外来では、総合病院及びこども病院で延患者数が中期累計を上回るほか、単価はこころの医療センターで中期累計を上回る見込みである。今期の収支は、経常収支累計が6,584百万円余(経常収支比率103.7%)、総収支累計が5,364百万円余となる見込みで、中期累計を大幅に上回るとともに、独法化後すべての年度で3病院とも黒字決算を達成する見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、職員一丸となって「患者満足度日本一」の病院を目指す。

#### 県立病院機構が目指す病院像 総合病院 3大疾患を中心に 「**最先端・最高品質の急性期医療**」を提供 ●急性心筋梗塞、脳卒中等に対する高度専門医療 がんに対する集学的治療、終末期医療 ●救命救急センターに準じた高度な急性期医療 業務の改善・改革に 取り組む風土づくり ●県内における第一級の病院 ●地域医療支援の中心的機能 こころの こども病院 県立病院間、 地域医療機関 との連携の強化 医療センター 県立3病院の診療機能の強化 身体からこころまで 日本トップレベルの 出生前から思春期まで切れ目ない 「精神科救急・急性期医療」を提供 日本一の「小児専門医療」を提供 ●24時間体制の精神科救急・急性期医療 ●小児重症心疾患患者への高度先進医療 ●他の医療機関では対応困難な重症患者 ●重篤な小児救急患者への救命救急医療 への先進的医療 ●ハイリスク胎児・妊婦への医療 ●包括的在宅医療支援体制のモデル構築 ●小児がんに対する集学的治療 経営の安定化 司法精神医療への積極的取組 児童精神科分野の中核的機能の発揮 健全化への取り組む

1

#### イ業務実績

#### (ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、今期の延患者数は第1期中期目標期間中の各年度計画の累計(以下「年度累計」)を 上回る見込み(+7,131人)であり、患者1人1日当り入院単価(以下、入院単価:入院収益÷年延 入院患者数)も年度累計を上回る見込み(+389円)であることから、年度累計と比べると収入は大 幅に増加する見込みである。
- ・ こころの医療センターは、今期の延患者数は年度累計を下回る(▲1,718人)見込みであり、入院単価も年度累計を下回る見込み(▲393円)であることから、年度累計と比べると収入は減少する見込みである。
- ・ こども病院は、平均在院日数の短縮により、今期の延患者数は年度累計を下回る(▲12,873人) 見込みであるが、入院単価は年度累計を若干下回るものの(▲89円)、中期累計と比べると大幅に 上回る見込み(+4,755円)である。

#### 業務量及び業務実績【入院】(税込)

(単位:人、%、円)

		H2	1	Н2	22	H2	23	H:	24	Н2	:5	5年間	累計
	区分	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績見込	年度計画 (中期計画)	見込	年度計画 (中期計画)	実績見込
入	総合	206, 881 (206, 881)	208, 226	211, 308 (211, 407)	221, 754	217, 153 (214, 228)	217, 419	216, 609 (215, 933)	211, 683	217, 287 (218, 196)	217, 287	1, 069, 238 (1, 066, 645)	1, 076, 369
院延	こころ	53, 874 (53, 874)	55, 850	56, 502 (56, 502)	55, 307	58, 406 (59, 130)	55, 207	57, 991 (59, 130)	58, 691	58, 681 (59, 130)	58, 681	285, 454 (287, 766)	283, 736
患者数	こども	82, 172 (82, 172)	76, 305	78, 582 (82, 172)	79, 028	82, 032 (83, 071)	73, 542	74, 299 (83, 071)	75, 337	76, 969 (83, 606)	76, 969	394, 054 (414, 092)	381, 181
<b>XX</b>	計	342, 927 (342, 927)	340, 381	346, 392 (350, 081)	356, 089	357, 591 (356, 429)	346, 168	348, 899 (358, 134)	345, 711	352, 937 (360, 932)	352, 937	1, 748, 746 (1, 768, 503)	1, 741, 286
	総合	87. 0 (87. 0)	87. 9	89. 0 (89. 0)	93. 6	91. 4 (90. 0)	92. 4	91. 7 (91. 0)	90.3	92. 3 (92. 0)	92. 3	90. 3 (89. 8)	91. 3
病床利	こころ	82. 0 (82. 0)	85. 0	86. 0 (86. 0)	84. 2	88. 7 (90. 0)	83.8	88. 3 (90. 0)	89. 3	89. 3 (90. 0)	89. 3	86. 9 (87. 6)	86. 3
用率	こども	80. 7 (80. 7)	74. 9	77. 2 (80. 7)	77. 6	80. 3 (81. 6)	72.0	73. 0 (81. 6)	74. 0	75. 6 (82. 1)	75. 6	77. 4 (81. 3)	74. 8
	計	82. 2 (79. 7)	84. 1	84. 1 (81. 4)	87. 9	88. 1 (82. 6)	85.7	86. 3 (83. 2)	85. 9	87. 5 (83. 9)	87. 5	85. 6 (82. 2)	86. 2
1人	総合	51, 701 (51, 701)	53, 135	54, 870 (52, 817)	57, 962	60, 212 (53, 866)	59, 156	59, 503 (54, 670)	62, 490	62, 742 (55, 484)	62,742	58, 736 (53, 732)	59, 125
1 日 当	こころ	19, 512 (19, 512)	19, 787	21, 431 (19, 707)	19, 885	22, 576 (19, 904)	21,712	22, 060 (19, 904)	22, 273	23, 848 (19, 904)	23,848	21, 928 (19, 792)	21, 535
り入院	こども	76, 410 (76, 410)	71, 293	76, 238 (76, 410)	80, 540	80, 830 (77, 777)	85, 934	89, 785 (77, 777)	85, 366	87, 808 (78, 577)	87,808	82, 240 (77, 396)	82, 151
単価	計	52, 565 (52, 565)	51, 734	56, 906 (53, 011)	57, 059	58, 795 (53, 805)	58, 874	59, 728 (54, 290)	60, 648	61, 742 (55, 004)	61,742	58, 011 (53, 750)	58, 040

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※病床利用率は、総合620床、こころ180床、こども279床で算定。5年間累計欄は、5年間の平均値。

※H24 実績見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11 月 30 日現在の見込数字。

#### (イ) 外来診療

- ・総合病院は、今期の延患者数は年度累計を大幅に上回る見込み(+43,905 人)で、患者1人1日当り外来単価(以下、外来単価:外来収益:年延外来患者数)も年度累計を上回る見込み(+138円)である。外来患者数は外来のキャパシティを超過気味なので、逆紹介を積極的に推進しているところである。
- ・ こころの医療センターは、今期の延患者数は年度累計を下回る見込み(▲10,841 人)であるが、外来単価は年度累計を若干上回る見込み(+66 円)である。
- ・ こども病院は、今期の延患者数は年度累計を上回る見込み(+16,813 人)で、外来単価は今期の年度累計を若干下回る見込み(▲263 円)である。

#### 業務量及び業務実績【外来】(税込)

(単位:人、%、円)

			H2	1	H2	2	H2	23	H2	24	H2	:5	5年間	累計
	区	分	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績見込	年度計画 (中期計画)	見込	年度計画 (中期計画)	実績見込
外	総	含	380, 000 (380, 000)	374, 166	370, 472 (380, 000)	393, 226	388, 068 (380, 000)	401, 041	392, 938 (380, 000)	406, 950	406, 173 (380, 000)	406, 173	1, 937, 651 (1, 900, 000)	1, 981, 556
来延	2	こころ	46, 000 (46, 000)	44, 492	46, 000 (46, 000)	43, 254	43, 432 (46, 000)	41,682	42, 687 (46, 000)	37, 850	37, 695 (46, 000)	37, 695	215, 814 (230, 000)	204, 973
患者数	2	ども	86, 056 (86, 056)	90, 285	88, 151 (86, 413)	91, 961	90, 899 (86, 767)	94, 704	92, 836 (87, 124)	97, 805	104, 827 (86, 767)	104, 827	462, 769 (433, 127)	479, 582
剱		計	512, 056 (512, 056)	508, 943	504, 623 (512, 413)	528, 441	522, 399 (512, 767)	537, 427	528, 461 (513, 124)	542, 605	548, 695 (512, 767)	548, 695	2, 616, 234 (2, 563, 127)	2, 666, 111
1人	総	合	14, 792 (14, 792)	15, 186	15, 021 (15, 384)	15, 524	15, 693 (15, 999)	16, 003	15, 978 (16, 639)	16, 598	16, 642 (17, 304)	16,642	15, 869 (16, 024)	16, 007
日 日	[ =	こころ	5, 674 (5, 674)	5, 581	5, 609 (5, 674)	5, 818	5, 807 (5, 674)	5, 855	5, 865 (5, 674)	6, 035	6, 035 (5, 674)	6, 035	5, 788 (5, 674)	5, 854
り外	[ =	ども	14, 510 (14, 510)	13, 116	13, 387 (14, 800)	13, 824	12, 636 (15, 096)	13, 537	13, 120 (15, 398)	12, 373	12, 390 (15, 706)	12, 390	13, 288 (15, 104)	13, 025
来単価		計	13, 925 (13, 925)	13, 979	14, 077 (14, 414)	14, 434	14, 339 (14, 920)	14, 781	14, 659 (15, 445)	15, 100	15, 101 (15, 990)	15, 101	14, 583 (14, 939)	14, 690

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。

※H24 実績見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11月30日現在の見込数字。

<参考資料> (単位:日、%)

区	分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込	備考
平均在院	総合	13. 5	13. 6	12. 4	12. 4	12. 4	
日数	こころ	100.1	108. 2	111.7	100.0	100.0	
日 奴	ども	12. 6	10. 9	10. 2	10. 4	10. 4	
	総合	81. 2	82. 1	81.5	81.0	81.0	
紹介率	こころ	62. 2	57. 9	67. 1	65. 2	63. 1	
	ども	87.9	96.0	99. 7	99. 5	95.0	
	総合	72. 0	93.8	105. 1	110.0	110.0	
逆紹介率	こころ	26.8	26. 1	48.3	29. 3	32.6	
	こども	30. 7	31. 5	34. 2	34. 2	34. 2	

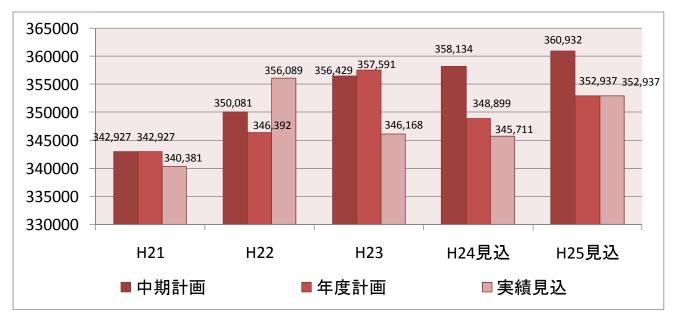
※平均在院日数は、総合及びこどもは一般病床分(こどもはNICU、GCU、MFICU除く)で算定。こころは医療観察法病床を除いて算定。

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11月30日現在の見込数字。

#### 患者数の推移(21年度実績~25年度見込)

#### 入院延患者数(3病院計)

(単位:人)



・今期の入院延患者数は、H22を除き中期計画を下回って推移している。

#### 外来延患者数(3病院計)

(単位:人)



・今期の外来延患者数は、総合病院で大幅に増加していることから、H21を除き中期計画を上回って推移している。

### (ウ) 収支実績(税込)

- 総収支累計は、5,364,257千円の利益となり、年度累計よりも5,817,758千円増加する見込みである。
- ・ 経常収支累計は、6,584,319 千円の経常利益となり、年度累計よりも5,857,574 千円増加する見込みで、 5 年間累計の経常収支比率は、100%以上(103.7%)を達成する見込みである。
- ・ 収益累計は、診療報酬改定に合わせて施設基準取得等による単価UPを図ったことにより、年度累計より も827,530 千円増収となる見込みである。
- ・ 費用累計は、契約方法の見直しや経費節減努力等により、各年度で年度計画を下回って推移しており、 年度累計よりも4,990,227千円の減少となる見込みである。

#### ① 収益的収支(税込) (単位:千円)

区分	款	J	頁	H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
		医 業	収 益	25, 176, 541	28, 437, 485	28, 917, 782	29, 722, 887	30, 652, 413	142, 907, 108
	<b>学 米</b>	運営費負	担金収益	7, 036, 939	6, 763, 994	6, 980, 172	6, 989, 992	7, 034, 051	34, 805, 148
	営 業 収 益	資産見返	負債戻入	245, 129	291, 684	164, 577	165, 266	181, 411	1, 048, 067
		その他は	営業収益	160, 252	372, 360	200, 814	222, 925	242, 473	1, 198, 824
		小	計	32, 618, 861	35, 865, 524	36, 263, 345	37, 101, 070	38, 110, 348	179, 959, 148
収	営業外	運営費負	担金収益	357, 276	344, 329	319, 828	310, 008	265, 949	1, 597, 390
益	収 益	その他営	業外収益	325, 114	314, 861	378, 427	377, 917	405, 006	1, 801, 325
		小	計	682, 390	659, 190	698, 255	687, 925	670, 955	3, 398, 715
	臨時利益	臨時	利益						
	収	益	計	33, 301, 251	36, 524, 714	36, 961, 600	37, 788, 995	38, 781, 303	183, 357, 863
	(予算額	※<年度	計画>)	(33, 723, 843)	(35, 639, 052)	(37, 151, 389)	(37, 234, 746)	(38, 781, 303)	(182, 530, 333)
	(増		額 )	(▲422, 592)	(885, 662)	(▲189, 789)	(554, 249)	(0)	(827, 530)
	営業	医 業	費用	31, 685, 079	33, 516, 534	33, 557, 272	35, 250, 528	37, 042, 451	171, 051, 864
	西 未   費 用	一般气	章 理 費	351, 388	340, 510	330, 202	373, 623	423, 780	1, 819, 503
		小	計	32, 036, 467	33, 857, 044	33, 887, 474	35, 624, 151	37, 466, 231	172, 871, 367
	営業外	財務	費用	630, 750	596, 763	553, 401	495, 632	468, 004	2, 744, 550
費	費用	その他営	業外費用	223, 294	218, 914	208, 925	198, 609	207, 886	1, 057, 628
月用		小	計	854, 044	815, 677	762, 326	694, 241	675, 890	3, 802, 178
1	臨時損失	臨時	損失	225, 697	369, 390	196, 149	257, 609	171, 217	1, 220, 062
	予備費	予 化	備 費		_		50, 000	50,000	100, 000
	費	用	計	33, 116, 208	35, 042, 111	34, 845, 949	36, 626, 001	38, 363, 338	177, 993, 607
	(予算額	※<年度	計画>)	(34, 647, 178)	(36, 034, 794)	(37, 195, 840)	(36, 742, 684)	(38, 363, 338)	(182, 983, 834)
	(増	減	額 )	<b>(</b> ▲1, 530, 970)	<b>(</b> ▲992, 683)	( <b>A</b> 2, 349, 891)	(▲116, 683)	(0)	( <b>A</b> 4, 990, 227)
	総	収	支	185, 043	1, 482, 603	2, 115, 652	1, 162, 994	417, 965	5, 364, 257
(	予算額※			(▲923, 335)	<b>(</b> ▲395, 742)	<b>(</b> ▲44, 451)	(492, 062)	(417, 965)	(▲453, 501)
(	増		額 )	(1, 108, 378)	(1, 878, 345)	(2, 160, 103)	(670, 932)	(0)	(5, 817, 758)
	経 常		支	410, 740	1, 851, 993	2, 311, 801	1, 420, 603	589, 182	6, 584, 319
( -	予算額※			(▲844, 922)	<b>(</b> ▲18, 084)	(206, 734)	(793, 835)	(589, 182)	(726, 745)
(	増		額 )	(1, 255, 662)	(1, 870, 077)	(2, 105, 067)	(626, 768)	(0)	(5, 857, 574)
糸	圣常山	又 支	比 率	101. 2%	105. 3%	106. 7%	103. 9%	101.5%	103. 7%
4	期計画		収支	<b>▲</b> 845, 060	<b>▲</b> 736, 181	81, 039	813, 548	1, 662, 718	976, 064
		経常収	支比率	97.6%	97. 9%	100. 2%	102.3%	104. 8%	100.6%

<sup>※</sup>単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

### ② 資本的収支(税込)

(単位:千円)

区分	京	款			項			H21	Н22	Н23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
II T	\/\fr	-	長	期	借	入	金	2, 152, 000	2, 204, 000	1, 472, 000	1, 099, 000	2, 423, 000	9, 350, 000
収入	資 本 収 入		そ	の	他	収	入	86, 038	323, 880	233, 950	188, 018	15, 137	847, 023
					計			2, 238, 038	2, 527, 880	1, 705, 950	1, 287, 018	2, 438, 137	10, 197, 023
			建	設	改	良	費	2, 417, 061	2, 700, 144	1, 881, 538	1, 500, 088	2, 446, 837	10, 945, 668
支	資	本	償		還		金	2, 767, 219	3, 439, 046	3, 353, 669	2, 491, 816	2, 527, 989	14, 579, 739
出	支	出	長	期	貸	付	金	_	_	_	52, 200	114, 000	166, 200
			計			5, 184, 280	6, 139, 190	5, 235, 207	4, 044, 104	5, 088, 826	25, 691, 607		
	総		収			支		<b>▲</b> 2, 946, 242	<b>▲</b> 3,611,310	<b>▲</b> 3, 529, 257	<b>▲</b> 2,757,086	<b>▲</b> 2,650,689	<b>1</b> 5, 494, 584
(	予算	額※	< 年	三度	計画	亘 >	)	<b>(</b> ▲2, 759, 306)	<b>(</b> ▲3, 506, 115)	<b>(</b> ▲3, 617, 365)	<b>(</b> ▲3, 024, 730)	( <b>A</b> 2, 650, 689)	( <b>▲</b> 15, 558, 205)
(	ţ	増	減		額		)	(▲186, 936)	(▲105, 195)	(88, 108)	(267, 644)	(0)	(63, 621)

<sup>※</sup>H24実績見込は、9月末実績による年間見込。H25見込は11月30日現在の見込数字(以下同様)。

<sup>※</sup>予算額は、11月末現在補正後(以下同様)。

### (工) 病院別収支実績

### 【総合病院】

## ① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	į	H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
		医 業	収 益	17, 212, 025	19, 434, 543	19, 807, 082	20, 536, 737	20, 952, 487	97, 942, 874
	営業	運営費負担	11金収益	2, 458, 665	2, 253, 305	2, 450, 185	2, 460, 247	2, 475, 496	12, 097, 898
	営 業 収 益	資産見返賃	負債戻入	178, 828	177, 957	106, 260	95, 552	112, 327	670, 924
		その他営	業収益	93, 413	167, 807	83, 834	107, 381	110, 982	563, 417
		小	計	19, 942, 931	22, 033, 612	22, 447, 362	23, 199, 917	23, 651, 292	111, 275, 114
収	営業外	運営費負担	11金収益	166, 281	158, 499	145, 852	135, 790	120, 541	726, 963
益	収 益	その他営業	美外収益	223, 449	234, 999	278, 601	295, 692	319, 074	1, 351, 815
		小	計	389, 730	393, 498	424, 453	431, 482	439, 615	2, 078, 778
	臨時利益	臨時	利益	_	_	_			
	収	益	計	20, 332, 662	22, 427, 110	22, 871, 815	23, 631, 399	24, 090, 907	113, 353, 893
	(予算額	※<年度計	+画>)	(19, 909, 879)	(22, 011, 028)	(22, 713, 709)	(22, 765, 972)	(24, 090, 907)	(111, 491, 495)
	(増	減	預 )	(422, 783)	(416, 082)	(158, 106)	(865, 427)	(0)	(1, 862, 398)
	営業		費用	19, 617, 876	20, 744, 684	20, 791, 513	22, 031, 753	23, 008, 626	106, 194, 452
	費用	一般管	理 費		_				
		小	計	19, 617, 876	20, 744, 684	20, 791, 513	22, 031, 753	23, 008, 626	106, 194, 452
	営業外	財務	費用	300, 594	282, 540	260, 673	235, 224	219, 870	1, 298, 901
費	費用	その他営業	美外費用	133, 635	136, 486	135, 251	121, 982	130, 245	657, 599
月用		小	計	434, 229	419, 026	395, 924	357, 206	350, 115	1, 956, 500
/ 13	臨時損失		損失	122, 324	161, 912	50, 946	202, 250	95, 742	633, 174
	予備費	予 備	費	_	_	_			
	費	用	計	20, 174, 541	21, 325, 622	21, 238, 382	22, 591, 209	23, 454, 483	108, 784, 237
	(予算額	※<年度計	+画>)	(20, 654, 443)	(21, 905, 436)	(22, 583, 368)	(22, 283, 403)	(23, 454, 483)	(110, 881, 133)
	(増	減	預 )	(▲479, 902)	(▲579,814)	( <b>A</b> 1, 344, 986)	(307, 806)	(0)	<b>(▲</b> 2, 096, 896)
	総	収	支	158, 121	1, 101, 488	1, 633, 433	1, 040, 190	636, 424	4, 569, 656
(	予算額※	<年度計	画 > )	( <b>▲</b> 744, 564)	(105, 592)	(130, 341)	(482, 569)	(636, 424)	(610, 362)
(	増	減額	( )	(902, 685)	(995, 896)	(1, 503, 092)	(557, 621)	(0)	(3, 959, 294)
	経 常	収	支	280, 444	1, 263, 400	1, 684, 379	1, 242, 440	732, 166	5, 202, 829
(	予算額※	<年度計	画 > )	( <b>▲</b> 722, 029)	(257, 529)	(205, 050)	(761, 691)	(732, 166)	(1, 234, 407)
(	増	減額	( )	(1, 002, 473)	(1,005,871)	(1, 479, 329)	(480, 749)	(0)	(3, 968, 422)
糸	圣常中	又支比	Ł 率	101. 4%	106. 0%	107. 9%	105.5%	103.1%	104.8%

### ② 資本的収支(税込)

区分	才	款	項					H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
ıləz	75c	+	長	期	借	入	金	1, 430, 000	1, 466, 000	777, 000	632, 000	1, 520, 000	5, 825, 000
収	   資   収	本入	そ	の	他	収	入	_	283	89, 184	188, 018	12,000	289, 485
					計			1, 430, 000	1, 466, 283	866, 184	820, 018	1, 532, 000	6, 114, 485
			建	設	改	良	費	1,607,164	1, 557, 635	922, 367	1, 032, 573	1, 538, 515	6, 658, 254
支	資	本	償		還		金	1, 798, 942	2, 404, 540	2, 327, 544	1, 507, 290	1, 564, 286	9, 602, 602
出	支	出	長	期	貸	付	金	_	_	_	31, 320	68, 400	99, 720
					計			3, 406, 106	3, 962, 174	3, 249, 911	2, 571, 183	3, 171, 201	16, 360, 575
	総		収			支		<b>▲</b> 1, 976, 106	<b>▲</b> 2, 495, 891	<b>▲</b> 2, 383, 727	<b>▲</b> 1,751,165	<b>▲</b> 1,639,201	<b>▲</b> 10, 246, 090
(	予算	額※	<左	F度	計画	画 >	.)	<b>(</b> ▲1, 793, 943)	<b>(</b> ▲2, 470, 335)	<b>(</b> ▲2, 396, 026)	<b>(▲</b> 2, 010, 998)	( <b>▲</b> 1, 639, 201)	( <b>▲</b> 10, 310, 503)
(	ţ	増	減		額		)	(▲182, 163)	<b>(▲</b> 25, 556)	(12, 299)	(259, 833)	(0)	(64, 413)

## 【こころの医療センター】

## ① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
		医 業 収 益	1, 381, 686	1, 359, 220	1, 450, 885	1, 541, 194	1, 632, 671	7, 365, 656
	फर ऋ	運営費負担金収益	1, 115, 050	1, 023, 393	1, 108, 781	1, 115, 107	1, 122, 046	5, 484, 377
	営 業 収 益	資産見返負債戻入	32, 980	69, 825	32, 517	30, 041	29, 830	195, 193
		その他営業収益	3, 249	96, 304	10, 828	2, 474	5, 385	118, 240
		小 計	2, 532, 965	2, 548, 742	2,603,011	2, 688, 816	2, 789, 932	13, 163, 466
収	営業外	運営費負担金収益	82, 813	77, 205	70, 972	64, 646	57, 707	353, 343
益	収 益	その他営業外収益	25, 073	22, 448	37, 051	25, 397	25, 592	135, 561
		小 計	107, 886	99, 653	108, 023	90, 043	83, 299	488, 904
	臨時利益	臨 時 利 益	_	_	_	_		
	収	益計	2, 640, 851	2, 648, 395	2,711,034	2, 778, 859	2, 873, 231	13, 652, 370
	(予算額	※<年度計画>)	(2, 549, 385)	(2, 782, 552)	(2, 818, 756)	(2,771,087)	(2, 873, 231)	(13, 795, 011)
	(増	減 額 )	(91, 466)	(▲134, 157)	( <b>▲</b> 107, 722)	(7, 772)	(0)	<b>(</b> ▲142,641)
	営業	医 業 費 用	2, 302, 843	2, 357, 086	2, 328, 427	2, 416, 935	2, 544, 428	11, 949, 719
	営 業 費 用	一般管理費			_			
	/19	小 計	2, 302, 843	2, 357, 086	2, 328, 427	2, 416, 935	2, 544, 428	11, 949, 719
	兴·张·N	財務費用	128, 348	117, 007	107, 550	98, 108	88, 086	539, 099
費	営業外費 用	その他営業外費用	18, 387	18, 264	9, 461	6, 298	6, 526	58, 936
月用		小 計	146, 735	135, 271	117,012	104, 406	94, 612	598, 036
/ 13	臨時損失	臨 時 損 失	63	90, 149	5,002	1, 256	8, 460	104, 930
	予備費	予 備 費	_	_				
	費	用 計	2, 449, 648	2, 582, 507	2, 450, 441	2, 522, 597	2,647,500	12, 652, 693
	(予算額	※<年度計画>)	(2, 537, 836)	(2, 632, 600)	(2, 593, 597)	(2, 634, 619)	(2, 647, 500)	(13, 046, 152)
	(増	減 額 )	(▲88, 188)	(▲50,083)	( <b>▲</b> 143, 156)	( <b>▲</b> 112, 022)	(0)	(▲393, 449)
	総	収 支	191, 203	65, 888	260, 593	256, 262	225, 731	999, 677
(	予算額※	<年度計画>)	(11, 549)	(149, 952)	(225, 159)	(136, 468)	(225, 731)	(748, 859)
(	増	減 額 )	(179, 654)	(▲84,064)	(35, 434)	(119, 794)	(0)	(250, 818)
	経 常	収 支	191, 266	156, 037	265, 595	257, 518	234, 191	1, 104, 607
(	予算額※	<年度計画>)	(11, 724)	(189, 941)	(234, 541)	(144, 924)	(234, 191)	(815, 321)
(	増	減 額 )	(179, 542)	(▲33,904)	(31, 054)	(112, 594)	(0)	(289, 286)
糸	圣常山	又 支 比 率	107.8%	106. 3%	110.9%	110. 2%	108.9%	108.8%

## ② 資本的収支(税込)

区分	苕	款	項				H21	H22	Н23	H24実績見込	H25見込	5年間累計				
ul T	<i>\/f</i> r.→	-	長	期(	普 入	. 金	30,000	32,000	49,000	34, 000	115, 000	260, 000				
収入	資収	本入	そ(	のイ	也収	入	20, 137	323, 128	_	_	_	343, 265				
				Ī	計		50, 137	355, 128	49,000	34, 000	115, 000	603, 265				
			建;	没 己	<b></b> 良	費	55, 304	397, 416	65, 194	34, 515	116, 340	668, 769				
支	資	本	償	ì	還	金	371, 777	373, 527	395, 349	402, 517	414, 221	1, 957, 391				
出	支	出	長		·					金	_	_	_	5, 220	11, 400	16, 620
				計 計			427, 081	770, 943	460, 543	442, 252	541, 961	2, 642, 780				
	総		収		支		<b>▲</b> 376, 944	<b>▲</b> 415, 815	<b>▲</b> 411, 543	<b>▲</b> 408, 252	<b>▲</b> 426, 961	<b>▲</b> 2, 039, 515				
( -	予算	額※	< 年	度	計画	>)	(▲369,862)	( <b>▲</b> 374, 492)	<b>(</b> ▲419, 425)	(▲412, 917)	<b>(</b> ▲426, 961)	<b>(</b> ▲2,003,657)				
(	ł	増	減		額	)	(▲7,082)	<b>(</b> ▲41, 323)	(7, 882)	(4, 665)	(0)	(▲35,858)				

## 【こども病院】

## ① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	]	頁 	H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
		医 業	収 益	6, 582, 831	7, 643, 722	7, 659, 815	7, 644, 956	8, 067, 255	37, 598, 579
	営業	運営費負	担金収益	3, 463, 224	3, 487, 296	3, 421, 206	3, 414, 638	3, 436, 509	17, 222, 873
	収益	資産見返	負債戻入	33, 321	43, 902	25, 800	39, 673	39, 254	181, 950
		その他は	営業収益	63, 589	108, 249	106, 151	96, 160	108, 644	482, 793
		小	計	10, 142, 965	11, 283, 170	11, 212, 972	11, 195, 427	11, 651, 662	55, 486, 196
収	営業外	運営費負	担金収益	108, 182	108, 625	103, 004	109, 572	87, 701	517, 084
益	収益	その他営	業外収益	76, 592	57, 029	62, 713	56, 828	60, 340	313, 502
		小	計	184, 774	165, 654	165, 717	166, 400	148, 041	830, 586
	臨時利益	臨 時	利益	_					
	収	益	計	10, 327, 739	11, 448, 824	11, 378, 689	11, 361, 827	11, 799, 703	56, 316, 782
	(予算額	※<年度	計画>)	(11, 264, 579)	(10, 845, 472)	(11, 618, 924)	(11, 679, 187)	(11, 799, 703)	(57, 207, 865)
	(増	減	額 )	(▲936,840)	(603, 352)	( <b>▲</b> 240, 235)	<b>(</b> ▲317, 360)	(0)	(▲891, 083)
	営業	医 業	費用	9, 764, 359	10, 414, 764	10, 437, 332	10, 797, 499	11, 484, 609	52, 898, 563
	費用	一般	ぎ 理 費	_					
		小	計	9, 764, 359	10, 414, 764	10, 437, 332	10, 797, 499	11, 484, 609	52, 898, 563
		財 務	費用	201, 808	197, 216	185, 178	162, 300	160, 048	906, 550
費	営業外   費 用	その他営	業外費用	61, 969	63, 849	64, 249	68, 329	69, 115	327, 511
月用	/19	小	計	263, 777	261, 064	249, 427	230, 629	229, 163	1, 234, 060
/ 13	臨時損失	臨時	損失	103, 310	117, 329	140, 201	53, 103	66, 015	479, 958
	予備費	予 化	崩 費	_	_			_	
	費	用	計	10, 131, 504	10, 793, 157	10, 826, 959	11, 081, 231	11, 779, 787	54, 612, 638
	(予算額	<b>※</b> <年度	計画>)	(11, 055, 211)	(11, 035, 430)	(11, 592, 567)	(11, 365, 052)	(11, 779, 787)	(56, 828, 047)
	(増	減	額 )	(▲923,707)	( <b>▲</b> 242, 273)	<b>(</b> ▲765, 608)	<b>(</b> ▲283,821)	(0)	<b>(</b> ▲2, 215, 409)
	総	収	支	196, 235	655, 667	551, 730	280, 596	19, 916	1, 704, 144
(	予算額※	<年度	計画 > )	(209, 368)	( <b>▲</b> 189, 958)	(26, 357)	(314, 135)	(19, 916)	(379, 818)
(	増	減	額 )	(▲13, 133)	(845, 625)	(525, 373)	<b>(▲</b> 33, 539)	(0)	(1, 324, 326)
	経 常	収	支	299, 545	772, 996	691, 931	333, 699	85, 931	2, 184, 102
(	予算額※	<年度	計画 > )	(215, 101)	( <b>▲</b> 57, 226)	(192, 451)	(327, 330)	(85, 931)	(763, 587)
(	増	減	額 )	(84, 444)	(830, 222)	(499, 480)	(6, 369)	(0)	(1, 420, 515)
糸	圣常儿	又支	比 率	103.0%	107. 2%	106. 5%	103.0%	100. 7%	104.0%

## ② 資本的収支(税込)

区分	크	款			項			H21	H22	Н23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
ul <del>uz</del>	\/\fr	-	長	期	借	入	金	692, 000	706, 000	646, 000	433, 000	788, 000	3, 265, 000
収え	   資   収	本入	そ	の	他	収	入	65, 901	468	144, 766	_	3, 137	214, 272
	1				計			757, 901	706, 468	790, 766	433, 000	791, 137	3, 479, 272
	資本		建	設	改	良	費	754, 593	745, 093	893, 976	433, 000	791, 982	3, 618, 644
支		本	償		還		金	596, 500	660, 979	630, 776	582, 009	549, 482	3, 019, 746
出	支	出	長	期	貸	付	金	_	_	_	15, 660	34, 200	49, 860
					計			1, 351, 093	1, 406, 072	1, 524, 752	1, 030, 669	1, 375, 664	6, 688, 250
	総	総				支		<b>▲</b> 593, 192	<b>▲</b> 699, 604	<b>▲</b> 733, 986	<b>▲</b> 597, 669	<b>▲</b> 584, 527	<b>▲</b> 3, 208, 978
(	予 算	予算額※		<年度計画>		計画 > )		(▲595,501)	(▲661, 288)	(▲801,914)	<b>(</b> ▲600,815)	( <b>▲</b> 584, 527)	<b>(</b> ▲3, 244, 045)
(	ŧ	増	減		額		)	(2, 309)	(▲38, 316)	(67, 928)	(3, 146)	(0)	(35, 067)

#### 【本部】

#### ① 収益的収支(税込)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24実績見込	H25見込	5年間累計
		医 業 収 益	_	_	_	_	_	_
	27. 7HF	運営費負担金収益	_	_	_	_	_	_
	営 業 収 益	資産見返負債戻入	_	_	_	_	_	_
		その他営業収益	_	_	_	16, 910	17, 462	34, 372
		小 計	_	_	_	16, 910	17, 462	34, 372
収	가건 캐스 FI	運営費負担金収益	_	_	_	_	_	_
益	営業外 収 益	その他営業外収益	_	385	62	_	_	447
	4X III.	小 計	_	385	62	_	_	447
	臨時利益	臨 時 利 益	_	_	_	_	_	_
	収	益 計	_	385	62	16, 910	17, 462	34, 819
	(予算額	※<年度計画>)	(-)	(-)	(-)	(18, 500)	(17, 462)	(35, 962)
	(増	減 額 )	(-)	(385)	(62)	(▲1,590)	(0)	<b>(</b> ▲1, 143)
	फ्रार और	医 業 費 用	_	_	_	4, 341	4, 788	9, 129
	営 業費 用	一般管理費	351, 213	340, 510	330, 202	373, 623	433, 780	1, 829, 328
	713	小 計	351, 213	340, 510	330, 202	377, 964	428, 568	1, 828, 457
	営業外	財務費用	_	_	_	_	_	_
費	費用	その他営業外費用	9, 303	315	<b>▲</b> 36	2,000	2,000	13, 582
月用	713	小 計	9, 303	315	▲ 36	2,000	2,000	13, 582
13	臨時損失			_		1,000	1,000	2,000
	予備費	予 備 費		_				
	費	用 計	360, 515	340, 825	330, 166	430, 964	481, 568	1, 944, 038
	(予算額	※<年度計画>)	(399, 688)	(461, 328)	(426, 308)	(459, 610)	(481, 568)	(2, 228, 502)
	(増	減 額 )	(▲39, 173)	( <b>▲</b> 120, 503)	<b>(</b> ▲96, 142)	(▲28, 646)	(0)	(▲284, 464)
	総	収 支	<b>▲</b> 360, 515	<b>▲</b> 340, 440	<b>▲</b> 330, 104	<b>▲</b> 414, 054	<b>▲</b> 464, 106	<b>▲</b> 1, 909, 219
(	予算額※	<年度計画>)	(▲399, 688)	(▲461,328)	<b>(</b> ▲426, 308)	(▲441, 110)	(▲464, 106)	( <b>A</b> 2, 192, 540)
(	増	減 額 )	(39, 173)	(120, 888)	(96, 204)	(27, 056)	(0)	(283, 321)
	経 常	収 支	<b>▲</b> 360, 515	<b>▲</b> 340, 440	<b>▲</b> 330, 104	<b>▲</b> 413, 054	<b>▲</b> 463, 106	<b>▲</b> 1,907,219
( .	予算額※	<年度計画>)	(▲399, 688)	<b>(</b> ▲408, 328)	<b>(</b> ▲425, 308)	<b>(</b> ▲440, 110)	<b>(</b> ▲463, 106)	<b>(</b> ▲2, 136, 540)
(	増	減 額 )	(39, 173)	(67, 888)	(95, 204)	(27, 056)	(0)	(229, 321)
糸	圣 常 4	又 支 比 率	_	_		_	_	

- ・総合病院の総収支累計は、4,569,656 千円の利益となり、年度累計よりも3,959,294 千円増加する見込みである。また、5 年間すべてで黒字を達成する見込みで、累計の経常収支比率も104.8%の見込みである。これは、急性期医療に重点配分された診療報酬改定の効果により積極的な施設基準の取得(総合入院体制加算、HCU 開棟など)を行い、単価 UP を図ったこと等によるものである。
- ・ こころの医療センターの総収支累計は、999,677 千円の利益となり、年度累計よりも250,818 千円増加する見込みである。また、5 年間すべてで黒字を達成する見込みで、累計の経常収支比率も108.8%の見込みである。これは、医療観察法病床(12 床)の整備により入院単価のUPを図ったこと等によるものである。
- ・ こども病院の総収支累計は、1,704,144 千円の利益となり、年度累計よりも1,324,326 千円増加する見込みである。また、5 年間すべてで黒字を達成する見込みで、累計の経常収支比率も104.0%の見込みである。これは、小児医療に重点配分された診療報酬改定の効果により積極的な施設基準の取得(NICU の増床など)を行い、単価 UP を図ったこと等によるものである。
- ・ 3病院の資本的収支は、総収支累計が年度累計を 63,621 千円上回る見込みで、ほぼ計画通りの執行 見込みである。主な施設整備は、総合でレストラン、院内保育所の新築、こころで医療観察法病床 (12 床)の整備、こどもで電子カルテの導入、NICU の増床、医師宿舎の建替などを実施している。

#### (オ) 経常収支比率の年度別推移

- ・ 当機構では、中期目標において「業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を 100%以上とすること。」を数値目標として設定しており、経営改善に取り組んでいる。
- ・ 今期の経常収支は、5 年間累計で 6,584,319 千円となり中期計画累計の 976,064 千円を 5,608,255 千円上回る見込みで、経常収支比率は、103.7%となり中期計画累計の 100.6%を 3.1 ポイント上回 る見込みで、中期目標を十分達成できる見込みである。

#### 経常収支の状況(税込)

(単位:千円、%)

	区分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込	5年間累計
経常	中期計画	<b>▲</b> 845, 060	<b>▲</b> 736, 181	81,039	813, 548	1, 662, 718	976, 064
収支	年度計画	<b>▲</b> 844, 922	<b>▲</b> 18, 084	206, 734	793, 835	589, 182	726, 745
収文	実 績	410, 740	1, 851, 993	2, 311, 801	1, 420, 603	589, 182	6, 584, 319
	中期計画	97.6%	97.9%	100. 2%	102.3%	104.8%	100.6%
比率	年度計画	97. 3%	98.9%	103.6%	102. 2%	101.5%	100.4%
	実 績	101.2%	105.3%	106. 7%	103.9%	101.5%	103.7%

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は11月30日現在の見込数字。

#### (カ) 経費削減及び効率化目標との関係

- ・ 当機構では、中期計画において委託費及び材料費の対医業収益比率低減を目標設定しており、数値目標の実現のため、委託費の削減手法として①委託契約の複数年化、②3病院に係る契約の一本化、 ③業務の包括化 また、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止等 に取り組んでいる。
- ・ 委託費については、各年度で中期計画を下回って推移するとともに H24 まで改善傾向となっており、 H24 見込は、中期計画より 1.2 ポイント、H21 より 0.5 ポイント改善する見込みである。 材料費に ついては、H23 までは各年度で中期計画及び前年度を下回って推移しているが、H24 から増加傾向 となっているため、今後の動向に注視していく。

#### 中期計画目標:委託費対医業収益比率(稅込)

(単位:千円)

	区分	H21	H22	H23	H24	H25
中期	医業収益	25, 591, 588	26, 378, 983	27, 263, 037	27, 803, 383	28, 487, 144
計画	委託費	3, 253, 817	3, 243, 530	3, 233, 449	3, 233, 449	3, 233, 449
計画	比 率	12. 7%	12.3%	11. 9%	11.6%	11.4%
	区分	H21	H22	Н23	H24 見込	H25 見込
	医業収益	25, 176, 541	28, 437, 485	28, 917, 782	29, 722, 887	30, 652, 413
実績	委託費	2, 732, 999	3, 020, 151	3, 106, 827	3, 083, 429	3, 410, 943
	比 率	10.9%	10.6%	10. 7%	10. 4%	11.1%

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は11月30日現在の見込数字(以下同様)。

#### 中期計画目標:材料費対医業収益比率(稅込)

	区分	H21	H22	H23	H24	H25
中期	医業収益	25, 591, 588	26, 378, 983	27, 263, 037	27, 803, 383	28, 487, 144
計画	材料費	8, 357, 340	8, 310, 998	8, 339, 746	8, 276, 137	8, 268, 962
可凹	比 率	32. 7%	31.5%	30.6%	29.8%	29.0%
	区分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	医業収益	25, 176, 541	28, 437, 485	28, 917, 782	29, 722, 887	30, 652, 413
実績	材料費	7, 930, 108	8, 323, 247	8, 205, 342	8, 873, 374	9, 123, 669
	比 率	31. 5%	29. 3%	28. 4%	29. 9%	29.8%

#### (キ)決算指標 <3病院計>(税込)

区分	項目	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	経常収支比率(%)	101. 2	105. 3	106. 7	103. 9	101. 5
収支構造	医業収支比率(%)	79. 4	84.8	86. 2	84.3	82. 7
	実質収益対経常費用比率(%)	78.8	84.8	85.6	83.8	82. 4
	病床利用率(%)【許可病床】	72. 9	76. 3	73.9	74. 1	75. 6
収入構造	入院患者1人1日当たり単価(円)	51, 734	57, 059	58, 874	60, 648	61, 742
	外来患者1人1日当たり単価(円)	13, 979	14, 434	14, 781	15, 100	15, 101
費用構造	職員給与比率(%)	62. 2	57. 7	57. 7	58. 4	60. 7
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	材料費比率(%)	31. 5	29. 3	28. 4	29. 9	29.8

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床利用率は、3病院の許可病床数で算定。

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11月30日現在の見込数字。

- ・ 収支構造の各指標は、経常収支比率が各年度で中期計画の数値目標である100%を上回る見込みで、 運営費負担金を除いた営業成績を示す医業収支比率、実質収益対経常費用比率ともに、独法化初年 度のH21実績に対して改善傾向を維持している。
- ・収入構造では、入院患者1人1日当たり単価が、各年度とも前年度を上回って推移しており、H25 見込はH21実績に対して10,008円の大幅な単価UPの見込みである。また、外来患者1人1日当た り単価も各年度とも前年度を上回って推移しており、H25見込はH21実績に対して1,122円の単価 UPとなる見込みである。
- ・ 費用構造では、職員給与比率、材料費比率ともに H21 実績よりも改善傾向を維持しているが、H24 見込から増加傾向に転じているため、今後の動向に注視していく。

#### 【収支構造】

- ・経常収支比率 経常収益・経常費用×100 病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・医業収支比率 医業収益・医業費用×100 医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。
- ・実質収益対経常費用比率 (経常収益-運営費負担金):経常費用×100 経常費用が経常収益から運営費負担金を引いた実質収益によって、どの程度賄われているかを示す指標で、100%に近いほど望ましい。

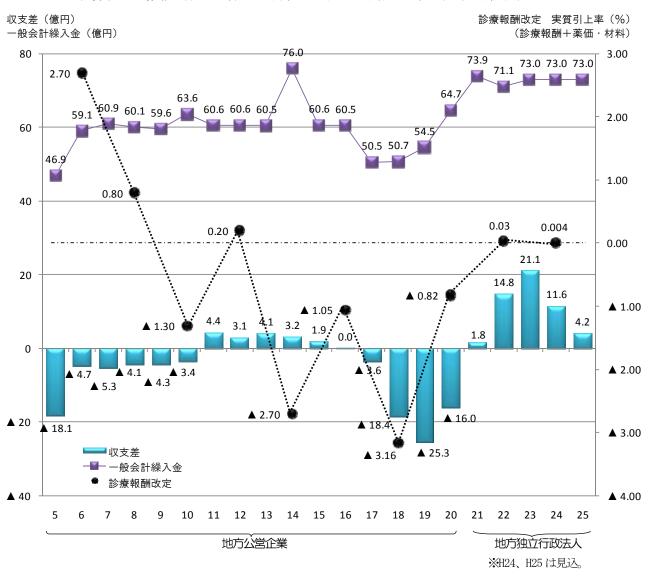
#### 【収入構造】

- ・病床利用率 年間延入院患者数÷年延病床数(許可病床×歴日数)×100 病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・入院患者1人1日当たり単価 入院収益÷年延入院患者数
- ・外来患者1人1日当たり単価 外来収益÷年延外来患者数 病院の収入分析をするうえで基本的な指標で、収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

#### 【費用構造】

- ・職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) 職員給与費・医業収益×100 病院の職員数等が適正であるか判断する指標で、職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・材料費比率(材料費対医業収益比率) 材料費・医業収益×100 この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

#### (ク) 決算状況の推移(収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定)(3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは、繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は、政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は、薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%]き下げる一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%]き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。

# (ケ) 職員の状況

**正規職員** (毎月初め人数累計÷12か月。ただし、H24は4~9月平均、H25は4/1 見込) (単位:人)

	区	分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	医	師	108	112	113	118	118
	歯	科 医 師	2	2	2	2	2
	看	護 師	578	624	620	638	649
		看 護 師	571	617	615	633	645
総合		准看護師	7	7	5	5	4
	医	療技術	138	145	154	169	175
	事	務	37	39	34	34	38
	技	能 労 務	_	-	_	_	_
		小 計	863	922	923	961	982
	医	師	12	12	12	13	14
	歯	科 医 師	_	_	_	_	1
	看	護師	102	108	110	113	113
		看 護 師	95	102	106	109	109
こころ		准看護師	7	6	4	4	4
	医	療技術	18	23	23	24	26
	事	務	13	13	13	13	13
	技	能 労 務	_	_		_	_
		小 計	145	156	158	163	166
	医	師	81	85	86	87	96
	歯	科 医 師	1	1	1	1	1
	看	護師	383	390	396	405	418
		看護師	382	389	395	404	417
こども		准看護師	1	1	1	1	1
	医	療技術	71	77	78	76	80
	事	務	27	28	26	29	29
	技	能 労 務	1	1	1	_	_
		小 計	564	582	588	598	624
	看	護師	1	1	1	1	1
		看護師	1	1	1	1	1
		准看護師	_	_	_	_	_
本部	医	療技術	_	_	1	1	1
	事	務	20	21	26	25	25
	技	能 労 務	-	-	_	-	-
	F-	小計	21	22	28	27	27
	医	師	201	209	211	218	228
	歯	科医師	3	3	3	3	3
	看	護師	1, 064	1, 123	1, 127	1, 157	1, 181
⇒ı		看護師	1, 049	1, 109	1, 117	1, 147	1, 172
計	F-	准看護師	15	14	10	10	9
	医	療技術	227	245	256	270	282
	事	務	97	101	99	101	105
	技	能労務	1 500	1 000	1	1 740	-
		合 計	1, 593	1,682	1, 697	1, 749	1, 799

② 有期職員 (毎月初め人数累計÷12か月。ただし、H24は4~9月平均、H25は4/1見込)(単位:人)

ट भन्न	<b>收</b> (四/11/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/	へ数ポロ・12 //ツ、	70 7472 0 ( 11=1 )	3,1 9,1 3,1		(1 = . ) ()
	区 分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	医 師	57	64	68	73	83
	うち初期研修医	27	24	19	26	33
	看 護 師	40	42	39	45	45
	看 護 師	40	42	39	44	45
総合	准看護師	_	_	_	1	_
	医療技術	27	23	26	28	28
	事務	16	20	26	(12)43	45
	補助職員	63	56	63	70	70
	小 計	203	205	222	259	271
	医 師	3	3	3	2	3
	うち初期研修医	_			_	_
	看 護 師	9	7	13	12	12
	看 護 師	9	7	12	11	12
こころ	准看護師	_	_	1	1	-
	医療技術	4	4	5	3	3
	事務	8	7	8	7	7
	補助職員	13	14	11	12	13
	小 計	37	35	40	36	38
	医 師	33	38	42	43	45
	うち初期研修医	_	ı	ı	_	1
	看 護 師	9	12	10	13	13
	看 護 師	9	12	10	12	13
こども	准看護師	_	ı	-	1	_
	医療技術	16	13	13	15	15
	事 務	7	10	13	(33) 46	46
	補助職員	22	18	21	22	22
	小 計	87	91	99	139	141
	看 護 師	-			-	_
	看護師	_	_	_	_	_
	准看護師	_	_	_	_	
本部	医療技術	_	_	_	-	_
	事 務	6	6	7	7	7
	補助職員	1	1	1	1	1
	小計	7	7	8	8	8
	医師	93	105	113	118	131
	うち初期研修医	27	24	19	26	33
	看護師	58	61	62	70	70
	看護師	58	61	61	67	70
計	准看護師	_	_	1	3	-
	医療技術	47	40	44	46	46
	事務	37	43	54	(45) 103	105
	補助職員	99	89	96	105	106
	合 計	334	338	369	442	458
※1 補	助職員:看護助手、薬	文川山手 おはぬけい	壬	※2 短期間特別	研修医は含まない。	

<sup>※1</sup> 補助職員:看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※2 短期間特別研修医は含まない。

<sup>※3</sup> 平成24年度の事務の()内は、病棟事務補助(クラーク)、医師事務補助の委託からの振替分で内数。

#### (コ) 職員の採用状況

- ・ ホームページに試験概要(受験資格や試験日程など)を受験案内の公開に先駆けて掲載を行い、採 用試験実施の周知に努めた。
- 看護師及び事務の採用試験については、学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同 就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載などにより試験広報を行った。
- ・ 看護師の採用については、定時募集を年4回行い、必要に応じて採用時期の前倒しを行うなど、随時の採用に努めている。しかしながら、採用数は、退職者を補う程度であるため、病院機能向上に伴う必要数の増加に対応できず、充足に至るように努めている。
- 事務の採用については、エントリーシートや簡易面談による事前審査を行い、試験実施の効率性を 確保するとともに、面接回数を増やすなどの人間性を重視した試験方法の見直しを行ってきた。また、採用内定辞退などへの対応として、年度途中の追加募集を行い、職員確保に努めている。
- ・ 医療技術の採用については、定時募集において補欠合格者を設定するなどして、試験合格者の採用 内定辞退に備えるなど職員の必要数確保に努めている。しかしながら、その後の辞退や必要数の増 などが発生した際には、年度途中の追加募集を行い対応している。

採用数の推移 (単位:人)

	区	$\wedge$				幾構全	体	
		分		H20【H21採用】	H21【H22採用】	H22【H23採用】	H23【H24採用】	H24【H25 採用見込】
看	看 護 師		師	117	139	88	98	110
事			務	9	14	8	8	11
医	療	技	術	19	25	21	26	33

### 職員数の推移 (各年度4月1日現在 現員数)

(単位:人)

	区分	H21	H22	H23	H24	H25 見込	備考
E	正規	202	212	213	219	231	
医師	有 期	94	105	116	117	131	
ыh	計	296	317	329	336	362	
看	護 師	1,071	1, 140	1, 139	1, 164	1, 181	
医	医療技術	227	245	257	270	282	
事	孫 務	98	102	102	101	105	
(うち	う事務プロパー)	(9)	(23)	(31)	(38)	(48)	
	計	1,692	1,804	1,827	1,871	1, 930	

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む。

※有期医師の契約は、1年更新、短期間特別研修医は除く。

実働数の推移 (単位:人)

			平成 21	年4月1日	3現在①	平成 24	年10月1	日現在②	増 減 数 ②-①			
⊵	<u> </u>	分	必要数	実働数	過不足	必要数	実働数	過不足	必要数	実働数	過不足	
			a	b	b-a	С	d	d-c	c-a=e	d-b=f	f-e	
医	正	規	231	201	▲30	239	220	<b>▲</b> 19	8	19	11	
	有	期	141	94	<b>▲</b> 47	158	117	<b>▲</b> 41	17	23	6	
師	計		372	295	<b>▲</b> 77	397	337	<b>▲</b> 60	25	42	17	
看	護	師	1,058	1,008	<b>▲</b> 50	1, 104	1,080	<b>▲</b> 24	46	72	26	
医	医療技術		236	225	<b>▲</b> 11	266	261	<b>▲</b> 5	30	36	6	
事務		99	98	<b>▲</b> 1	101	101	0	2	3	1		
	計		1, 765	1,626	<b>▲</b> 139	1,868	1,779	▲89	103	153	50	

<sup>※</sup>実働数=現員数-休職者数

#### ウ特記事項

#### (ア) 経営改善

- ・ 薬品費や診療材料費については、購入品目数の絞込みに加え、納入業者数の見直し、価格交渉の更なる拡充等の改善を進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化など、委託業務契約等の契約手法の見直しを中心に、地方独立行政法人制度のメリットを活かした改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度(インセンティブ(契約延長:最長5年間の業務受託が可能)の付与や業務内容が適切ではない場合の契約解除等が課せられている。)の導入などにより、 業務の質の向上も図った。

以上のような改善の推進には、事務部門のみではなく医療従事者の理解と協力が不可欠であり、経営改善に向けた取り組みを通じて、職員間にコストと委託業務等の質に関する意識づけが進んだ。

※( )は24年度実績(暫定版)のNo(以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (薬品費の節減)	【今期の実績】 ・一薬品メーカー・一卸業者制度 ・納入卸業者数の見直しによる事務効率化及び値引き率の向上  【次期への課題】 ・アドバイザー・ベンチマークを活用した更なる効率化の推進 ・購入から消費までの業務の効率化と業務フローの整備 ・ジェネリック医薬品の導入促進	89 (83)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (診療材料費の節減)	<ul> <li>【今期の実績】</li> <li>・医療従事者と協働した同種同効品の絞込み、3 病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等</li> <li>・診療材料の品目数の削減</li> <li>【次期への課題】</li> <li>・購入から消費までの業務の効率化(業務フローの精査)</li> <li>・診療材料の品目数の更なる削減</li> </ul>	89 (83)
コスト節減への取組を強化する (医療機器購入・保守管理業務の改善)	【今期の実績】 ・保守管理委託の3病院一括化・複数年化・同種業務の包括化による保守管理費の節減 【次期への課題】 ・機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る更なる検討	90 (84)
コスト節減への取組を強化する (委託料等の契約形態による業務改善)	【今期の実績】 ・契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化による委託料の節減及び業務の効率化・モニタリング制度による業務の質の向上 【次期への課題】 ・現行契約の効果水準の維持及び更なる改善に向	91 (85)
・情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信体制の整備 (説明責任・透明性の確保)	けた検討 【今期の実績】 ・総合病院において原価計算システムを導入し、検証や見直しを図りながら定期的にデータを蓄積した。 【次期への課題】	40 · 92 (87)
・経営情報の積極的な活用による効率 的な運営 (原価計算への取組)	・医師のタイムスタディ等費用配賦のための基礎 資料を定期的・効率的に収集する。	

#### (イ)環境改善

- ・ 医療従事者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めた。
- ・ 業務改善の推進として、各病院が各々行っていた表彰制度を統合し、機構の改革推進制度と して新たに設置し、改革・改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。
- ・ 看護師確保の一環として、多様な勤務形態のひとつである看護師の2交代制勤務の制度化について 労働組合と合意し、平成23年8月から総合病院において、平成24年4月からこども病院において 2交代制勤務を開始した。
  - また、こころの医療センターにおいても、平成24年9月から試行を開始した。
- ・ 有期雇用職員(県の場合、非常勤職員)については、正規職員と同様のフルタイム雇用も可能とし、 業務量及び施設基準に必要な職員の確保、働く人のニーズへの対応等について弾力的に運用した。

- ・ 多忙化する医師を支援するため、医療秘書(医師事務作業補助者)の配置(H25.1 月末現在49人)を行い、医師の業務負担感の軽減を図った。なお、看護師支援のため平成21年度より配置していた病棟支援員については、看護助手と同様の業務を行っていたことから、平成24年度より看護助手に一本化して管理するものとした。
- ・ 看護師確保の一環として、当機構への就職を希望する看護学生に対して養成校修学資金の貸 与を行う制度を創設した。これにより一定の看護師が就職することが期待される。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (研修体系プログラムの整備)	【今期の実績】 ・階層別研修(新規採用、新規役付、新任監督者、管理者) ・専門研修(コーチング、コミュニケーション*、プレゼンテーション、メンタルサポート*) ・事務職員研修*(基礎研修、医療事務基礎、総務事務、決算事務) ※新規実施 【次期への課題】 ・研修内容の拡充 ・本部と各病院の役割分担、研修内容の調整 ・事務職員については、事務職としての基礎知識と病院事務職としての専門性向上 ・キャリアパスの作成 ・長期的な研修計画の策定	80 (75)
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (看護師修学資金制度の創設)	【今期の実績】 ・平成 24 年度から新たに制度を運用し、修学生のうち 31 名が採用試験を経て採用内定  【次期への課題】 ・より効率的で効果的な制度周知 ・養成校の新入生(進学する高校生)をターゲットにした PR	81 (76)
高度医療を支える医療従事者の専門能力の向上を図る一環として、認定資格等の取得奨励を推進する体制の整備を図る (認定看護師等の資格取得を支援(医療の質の向上))	【今期の実績】 ・認定看護師育成状況(H24.9月末現在累計)総合12名、こころ7名、こども10名・メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化  【次期への課題】 ・資格取得者の評価及び活用方法の検討・メディカルスキルアップセンターの利用促進	49 (44) 82~84 (77~79)
プロパー職員(事務部門)の確保 (職員センター業務の一元化)	【今期の実績】 ・総合病院内への法人本部職員センター設置 (H23.3月~) ・法人本部と総合病院の事務協力と効率化	94 (-)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
プロパー職員(事務部門)の確保(業務マニュアルの作成)	【今期の実績】 ・事務部門の業務マニュアル整備 ・院内コミュニケーションシステムへの公開(共有化) ・3病院業務別担当者連絡会(研修会)の開催 【次期への課題】 ・3病院担当者連絡会や集約したマニュアルを活用した病院間業務の平準化	95 (89)
職員による経営・業務改善の提案を奨励する制度を充実し、提案が反映される制度の整備を図る (業務改善に不断に取り組む組織風土の 醸成(改革・改善推進制度の創設))	【今期の実績】 ・業務改善提案の活性化 ・表彰による業務改善の推進 【次期への課題】 ・業務改善意識のさらなる高揚 ・改革改善提案の普及	96 (90)
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (多様な雇用形態や勤務形態への取組 (就労環境の向上))	【今期の実績】 ・ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態の採用 ・県立総合病院、県立こども病院における看護師2交代勤務制の開始など柔軟な勤務形態導入への取組み 【次期への課題】 ・職員が働き続けることができるような、更なる多様な勤務形態の整備	97 (91)
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医師の事務負担軽減のための「医療秘 書」の配置(多忙化解消・質の向上))	【今期の実績】 ・医師の時間外勤務の削減等(多忙化解消) ・医療の質の向上(患者と接する時間の確保等) ・医療秘書49人(43.57人工)の配置 (総合30人(29.07人工)、こころ1人(1.00人工)、こども18人(13.50人工)) H25.1月末 【次期への課題】 ・人材の育成(医療に熟知した人材が必要)	99 (93)
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (看護師の業務負担軽減のための「病棟 支援員」の配置(多忙化解消))	【今期の実績】 ・看護師不足に対応するため、看護師充足まで支援員を配置 ・病棟支援員については平成24年度より看護助手として管理し、看護師業務の軽減に寄与。 ・看護助手83人配置 (総合54、こころ9、こども20)H24.9月末 【次期への課題】 ・費用対効果の検証	99 (93)
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医師・看護師確保のための宿舎・院内 保育所の整備)	【今期の実績】 ・総合病院医師・看護師宿舎、こども病院看護師宿舎の借上げ(平成23年4月入居開始) ・こども病院医師宿舎の建設(H24.3月完成) ・総合病院院内保育所の建設(H24.3月完成) 【次期への課題】 ・こども病院の老朽化した医師宿舎の取扱い ・こども病院の保育所のあり方	98 (92)

#### (ウ) 災害等における医療救護

#### ①東日本大震災への対応状況

・ 東日本大震災(平成23年3月)への医療救護活動として、岩手県宮古市などへの県立総合病院の DMAT派遣及び静岡県医療救護班派遣(一般医療チーム及び精神医療チーム)等による被災地支援を発災直後から平成24年3月末まで実施した。

派遣実績 (単位:日、人)

	17	$\wedge$	派遣期間 派遣職員数 派遣職員数		战員数			
	区	分	(移動を含む)	延口剱	合計	医師	看護師	その他
	DN	IAT派遣	3/11~3/21	7	12	4	4	4
	総合	病院で独自派遣	3/18~3/21	4	6	3	2	1
H22	静岡	別県医療救護班						
П		一般医療チーム	3/21~3/28	10	13	6	5	2
		精神医療チーム	3/24~4/3	15	14	5	3	6
		累計		36	45	18	14	13
	静岡	別県医療救護班						
		一般医療チーム	4/ 2~4/30	29	28	12	8	8
H23		精神医療チーム	4/14~3/30	99	52	21	16	15
	放射	<b>才線技師派遣</b>	7/18~7/22	5	2	0	0	2
		累計		133	82	33	24	25
_	糸	总 計		169	127	51	38	38

※静岡県医療救護班:静岡県からの要請に基づき、県内公的病院による救護班を組織して派遣。

「一般医療チーム」⇒「総合+こども」「総合」によるチーム編成。

「精神医療チーム」⇒「こころ」によるチーム編成。

※放射線技師派遣:福島県からの要請に基づき、被ばくスクリーニング業務を行う技師を静岡県でチームを編成して派遣。

#### ②東海地震に備えた今後の対応

- ・ 各病院で災害対応マニュアルの見直しを進めているところであり、東日本大震災を教訓とした想定内容をマニュアルに反映させていくとともに、避難訓練の実施方法や設備面での見直しも検討している。
- ・ 県や静岡市では、現在各々の防災計画の見直しを行っているところであり、各病院が地域防災における役割を的確に果たせるよう、上位計画の見直しに合わせて機構の計画見直しを行い、体制整備を図る。
- ・ 医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及 び卸業者との協議を進める(航空機による搬送計画等検討)。
- ・ 被ばく医療について、福島第一原発相当の事故に対応する体制・医療計画の見直しについて県 をはじめ関係機関と協議する。

#### (2) 総合病院

### 〈理 念〉

#### 「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療: 身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の 全体的な健康回復を目指す医療

#### <基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

#### ア総括

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

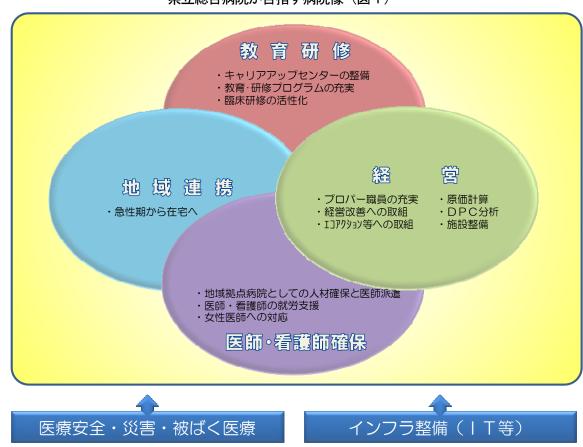
本中期計画期間は、主要事業として、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供及び救急救命センターに準じた機能を目指す救急医療の提供を三本柱として取り組んだ。

また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

平成22年4月及び平成24年4月の2回にわたる診療報酬増額改定の効果を最大に享受すべく、施設基準の積極的な取得及び維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、診療単価を向上させている。必要看護師数を確保できない状況の中で、3G病棟(ICU/CCU)を特定集中治療室管理料の届出、3A病棟(HCU)を開棟しハイケアユニット入院医療管理料の届出など、診療機能の向上に努めた。この結果、入院延患者数、外来延患者数ともに中期計画を上回り、収入も中期計画を上回った。

今後も、県立総合病院が目指す病院像(次頁(図1)参照)のとおり、病院が所有する各種機能を 強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとする。

#### 県立総合病院が目指す病院像(図1)



#### イ 業務実績を示す各種指標

・ 延患者数については、入院、外来とも中期計画を上回った。また、単価についても、入院、外来とも中期計画を上回った。この結果、期間中の収入は中期計画額を確保する見込みである。

#### 業務実績

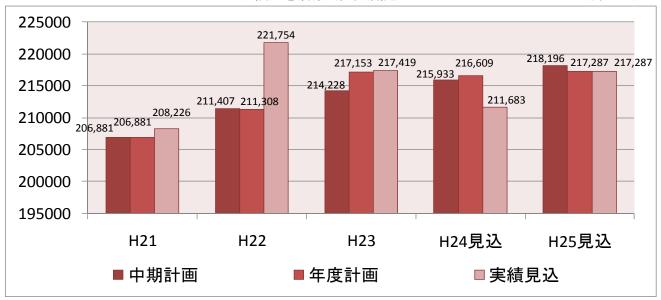
		区分		H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	1	年間入院延患者数	(人)	198, 986	211, 867	209, 628	204, 341	208, 987
	般	患者1人1日当たり単価	(円)	54, 738	59, 655	60, 517	63, 822	64, 224
入	病	平均在院日数	(日)	12. 5	12. 6	12. 4	12. 4	12. 4
	床	病 床 利 用 率	(%)	87. 9	93. 6	92. 4	90. 3	92. 3
	結	年間入院延患者数	(人)	9, 240	9, 887	7, 791	7, 342	8, 300
院	核	患者1人1日当たり単価	(円)	18, 556	21, 644	22, 554	25, 419	25, 419
	病	平均在院日数	(目)	75. 3	78. 0	76. 5	68. 9	68. 9
	床	病 床 利 用 率	(%)	25. 3	27. 1	21.3	20. 1	22. 7
夕	7	年間外来延患者数	(人)	374, 166	393, 226	401, 041	406, 950	406, 173
末	Ę	患者1人1日当たり単価	(円)	15, 186	15, 524	16,003	16, 598	16, 642

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床620 床、結核100 床で算定。 ※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11 月30 日現在の見込数字。

#### 患者数の推移(21年度実績~25年度見込)

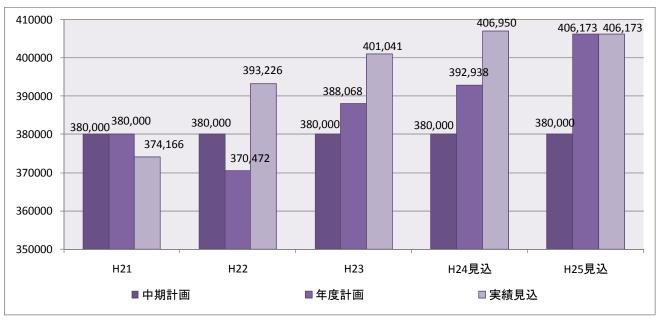
#### 入院延患者数 (総合病院)

(単位:人)



#### 外来延患者数 (総合病院)

(単位:人)



・ 紹介率、逆紹介率については、ともに過去最高の水準を実現し、病診・病病連携がいっそう進んでいる。

紹介率・逆紹介率

(単位:%)

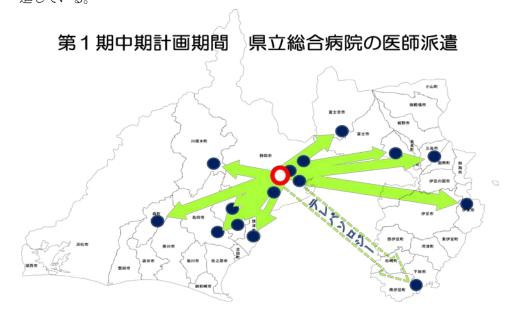
区	分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込	備	考
紹介率	Š	81. 2	82. 1	81.5	81.0	81.0		
逆紹介率	Š	72. 0	93.8	105. 1	110.0	110.0		

※紹介率・逆紹介率の算定方法については、P71の用語解説を参照。

#### ウ特記事項

#### (ア) 医療

- ・医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成24年3月の厚生労働省告示により、全国1,505のDPC病院(急性期病院)の中で全国90病院のII群の一つとなり、大学病院本院(I群)と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた(県内では当院を含めて5病院)。
- ・ 循環器病については、14 床の CCU/ICU を 24 時間体制で運用し、その利用率は 98.4%となった。 平成 21 年度に再開した不整脈外来・カテーテルによる不整脈治療や脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用しており、医師の増員は実現していないものの循環器病センターの機能充実に努めた。
- ・ がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。 放射線治療の充実を目指して、平成22年度にリニアックを1台増設し、稼働した。また、平成22 年度に内視鏡室の改修工事が完了し検査・治療環境が改善した。このほか、地域の医療者にも開かれたキャンサーボードとがん医療研修会を定期的に開催し、PETセンターの共同利用を進めるなど、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に努めた。平成24年3月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2009年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,330件は全国377施設で32番目に多い登録件数であった。
- ・ 救急医療については、医師の変則勤務の試行、曜日別当番医師を定めるなど、循環器病センターの 機能充実と相俟って救急医療体制の充実に努めた。東日本大震災の対応における課題を受け、平成 24年3月に厚生労働省医政局長から「災害時における医療体制の充実強化について」の通知がさ れ、基幹災害拠点病院は救命救急センターであることが要件となり、救命救急センターの設置が課 題となった。その要件である複数の救急科専門医の確保の見通しが立ったため、平成25年度に救 命救急センターの指定を受ける見込みである。
- ・地域医療の支援については、平成21年度から平成24年9月までに14医療機関に対して延べ2,887人の医師の派遣を行うとともに、PETやCT・MRIの高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成22年度総務省委託事業である「地域ICT利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成24年9月末現在、開示病院は7病院、参照機関は91施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。



・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成23年度に卒後臨床研修評価機構(JCEP)による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が高く評価され、認定証の発行を受けた。また、医師臨床研修マッチングにおいて、平成24年度は、募集定員全員の14名を確保することができ、平成25年度は募集定員17名中16名を内定できた。

※()は24年度実績(暫定版)のNo(以下同様)

計画実施のための手段	**( )は24 年及美額(智定版)の No 中期目標期間の取組概要	実績表 NO	
循環器病センター機能を生かすべく、 循環器疾患患者に対し、24時間を通 して高度な専門的治療を提供する体	【今期の実績】 ・CCU/ICU の 24 時間 365 日の運用維持 ・MRI、CT、心カテ、IVR の活用 ・メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化	13~15 (1~3)	
制の整備を図る (循環器病センターの運営(施設稼働率 の向上))	<ul><li>【次期への課題】</li><li>・高度医療機器の活用推進</li><li>・医師の確保</li><li>・メディカルスキルアップセンターの外部利用促進</li></ul>		
がん疾患患者に対して、地域がん診療 連携拠点病院としての高度な集学的 治療を提供する体制、情報提供・発信 する体制の充実を図る	【今期の実績】 ・地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす(主要がん手術、放射線治療、外来化学療法、緩和ケア、がん相談、がん登録) ・PET イメージングセンターの運営(がんの病期診断精度等の向上、PET 検診提携)	16~18 (4~6) •	
(がん医療の推進(地域がん拠点病院の機能))	【次期への課題】 ・麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保 ・がん相談窓口の充実	(52)	
重篤な救急患者に対して救命救急センターに準じた機能の段階的な整備	【今期の実績】 ・救急車搬送患者の受入体制の確保 ・当直体制、当番体制の整備 ・医師の変則勤務の試行	19 · 20	
を図る (救急医療への取組み(救急の体制))	【次期への課題】 ・医師の負担軽減 ・救急専門医の確保	(7 · 8)	
地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る	【今期の実績】 ・紹介率 80%以上、逆紹介率 60%以上 ・高度医療機器の共同利用 ・葵カード発行	55 • 56 (51 • 52)	
(地域医療支援への取組み(地域医療支援病院の機能))	【次期への課題】 ・PET 検診の提携拡大		

#### 循環器病センター







心カテ室(2F)



CCU (3F)

#### (イ)経営改善

- ・ 必要看護師数が確保できない状況の中、医療秘書や病棟支援員の配置、看護師の離職防止対策などを進めた結果、「医師事務作業補助体制加算」や「急性期看護補助体制加算」の施設基準の取得及びランクアップし、一般病棟7対1看護の維持に努めつつ、3G病棟(ICU/CCU)を特定集中治療室管理料の施設基準の届出、3A病棟(HCU)を開棟しハイケアユニット入院医療管理料の施設基準の届出など、診療機能の向上に努めた。また、平成22年4月と平成24年4月の診療報酬改定における増収につながる施設基準を可能な限り取得し、収入の確保に努めた。
- ・ エコアクション 21 の取組み、業務委託等の見直しを行うなど、医業費用の縮減に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・7 対 1 看護維持等 ・新規に取得した施設基準の数 75 件(ランクアップ 5 件含む) ・高度専門医療の提供 ・年度計画収支の改善 【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大 ・院内に専門的知識を持った職員を養成 ・事務プロパー職員の専門性を高めていくための人材育成計画等を整備していく必要がある。	88 (82)
エコアクション 21 認証取得後の取組 み (省エネの推進)	【今期の実績】 ・エコアクション 21 認証取得、更新 ・内部監査実施 ・光熱水費の削減 ・エコ川柳・標語募集・表彰式 ・エコウォークラリーの開催 ・エコパトロールの実施	_

#### エコ・マイ・ホスピタル

「環境と人にやさしい」わたしの県立総合病院

#### 〈環境方針〉

#### 〇基本理念

静岡県立総合病院職員は、医療が環境に多大な影響を及ぼすことを認識し、「環境と人にやさしい病院」を目指し、力を結集して環境保全に取り組みます。

#### 〇基本方針

- 1. 地球温暖化防止のため省資源・省エネルギーを実行し、温室効果ガスの排出量を削減します。
- 2. 水資源を大切にし、水の使用量を削減します。
- 3. 廃棄物のリデュース(発生抑制)、リユース・リサイクルの3R活動を推進し、廃棄物を削減します。 また、積極的なグリーン購入を進めます。
- 4. 感染性廃棄物とその他廃棄物の分別の徹底と適正使用を図ります。
- 5. 医薬品・検査試薬、診療材料、医療機器の適正使用と安全管理に努めます。
- 6. 環境関連法規等を遵守し、環境保全に努めます。
- 7. 環境教育・啓発活動を実施し、環境へのいつくしみと人へのやさしさを育みます。

#### (ウ) 環境改善

院内保育所を整備するなど就労環境の向上を図っている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	<ul> <li>【今期の実績】</li> <li>・看護師2交代勤務を導入した。</li> <li>・1病棟1カンファレンスの整備</li> <li>・医師宿舎(世帯用)のリニューアルを実施した。</li> <li>・院内保育所を整備した。(定員55人→100人)</li> <li>・新医局のオープン</li> <li>・医療秘書(医師事務作業補助者)を16人から30人(H25.1月末)に増員し、医師の負担軽減を図った。</li> <li>【次期への課題】</li> <li>・2交代勤務実施病棟の拡大</li> </ul>	97 · 98 (91 · 92) · 99 (93)

・ 職員及び来院者のアメニティの向上のために施設整備を進めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
職員の就労環境の改善、向上を図る。	【今期の実績】 ・院内カフェ、外来食堂及び売店がオープンし、外来改修工事も完成した。 ・イートインスペースを新たに2ヵ所設置した。 ・職員休憩室を地下から環境の良い北館6階へ移転させた。	101 (95)
	【次期への課題】 ・北館6階職員エリアの整備	

院内保育所 (H24.4.1 オープン)



アメニティ棟【レストラン】(H24.4.1 オープン)



売店(H24.8.1オープン)



院内カフェ(正面玄関ホール)H22.6.1 オープン



### (3) こころの医療センター

### 〈理 念〉

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

#### <基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24 時間 365 日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

### ア総括

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「先進医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備(将来構想(図2)参照)に取り組んでいる。

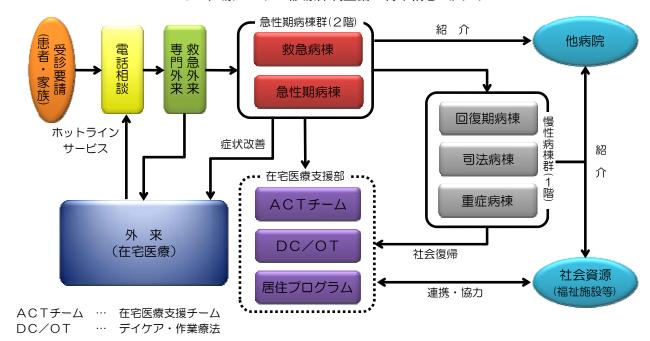
平成 22 年度に急性期病棟群(救急及び急性期病棟)を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、これを後方的に支援する慢性病棟群(回復期及び慢性重症病棟)との機能分化を進め、効率的な病棟運営に努めた。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んだ。

合わせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・ 社会的治療への取り組みを強化した。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法 (m-ECT) など、先進的医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んだ。

#### こころの医療センター診療体制整備の将来構想(図2)



### イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、医療観察法病床の増設や病棟の移設工事、また、これに伴って8 床減少した病床の増設工事が、22 年7 月から23 年末まで行われたこともあり、この時期に一時減少したが、増床工事の終了した24 年から回復し、その後は順調に推移している。
- ・ 入院単価は、単価が高い医療観察法による患者の受入が本格化した23年度以降、上昇基調にある。
- ・ 外来延患者数は、21 年 3 月にダウンサイジング(児童精神病棟のこども病院への移転)を実施した影響や、救急医療への積極的な取組を目的に、23 年度から救急外来専用枠を設定、24 年度から新規外来患者枠の増枠をしたが、その反面、症状の軽い再診患者の地元診療所への転院が進んだこと等から、漸減している。
- ・ 外来単価は、各種検査の実施率改善等により、小幅ではあるが上昇基調にある。

#### 業務実績

	区 分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
	年間入院延患者数(人)	55, 850	55, 307	55, 207	58, 691	58, 681
入	患者1人1日当たり単価(円)	19, 787	19, 885	21, 712	22, 273	23, 848
院	平均在院日数(日)	100. 1	107. 1	111. 7	100.0	100.0
	稼働病床利用率(%)	85. 0	84. 2	83.8	89. 3	89. 3
外	年間外来延患者数(人)	44, 492	43, 254	41,682	37, 850	37, 695
来	患者1人1日当たり単価(円)	5, 581	5, 818	5, 855	6, 035	6, 035

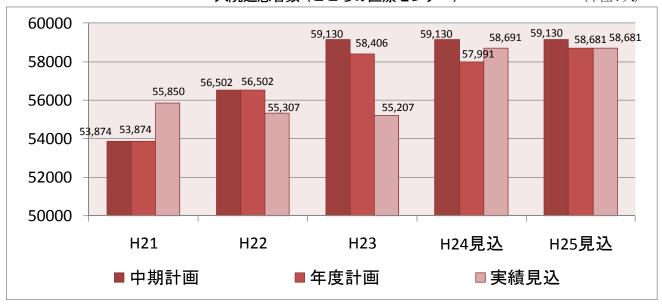
※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。 病床利用率は、180床で算定。

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11 月 30 日現在の見込数字。

#### 患者数の推移(21年度実績~25年度見込)

入院延患者数 (こころの医療センター)

(単位:人)



外来延患者数(こころの医療センター)

(単位:人)



・ 紹介率は、地域医療機関との連携、予約制の浸透等により、計画値を上回っているが、逆紹介率については、23年度を除いて計画値を下回っている。

紹介率·逆紹介率

(単位:%)

区 分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込	備	考
紹介率	62. 2	57. 9	67. 1	65. 2	63. 1		
逆紹介率	26. 8	26. 1	48.3	29. 3	32. 6		

#### ウ特記事項

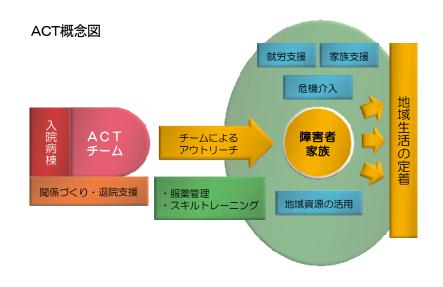
#### (ア) 医療

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築 や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に 集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- ・ 地域医療の支援については、県内全域を対象とする「精神科教急ダイヤル」を開設するなど、24 時間体制で教急相談に対応したほか、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣など に取り組んだ。
- ・ 先端薬物療法 (クロザピン) や先進的な治療法である修正型電気けいれん療法 (m-ECT) の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に 対する心理教育・家族教室に関する取り組みを強化・拡大した。
- ・ 包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24 時間365 日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。
- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、増床により機能を充実し、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

#### ※()は24年度実績(暫定版)のNo(以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO	
24 時間体制で精神科救急医療相談に 応じ患者を受入れるとともに、新たな 入院患者が 90 日以内に退院し社会復	【今期の実績】 ・精神科救急、急性期医療に特化した診療体制への整備 ・在宅医療支援体制の強化	01 00	
帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急・急性期医療の提供体制の 整備)	【次期への課題】 ・長期在院患者の退院促進と在宅医療支援の強化 ・新規患者比率を高める ・新規患者の90日以内の退院率を高める	21 · 22 (9 · 10)	
24 時間体制で精神科救急医療相談に 応じ患者を受入れるとともに、新たな 入院患者が 90 日以内に退院し社会復 帰できるよう支援する精神科救急・急	【今期の実績】 ・県内全域を対象とし、24 時間体制で救急医療相 談に対応	23 · 65 (11 · 54)	
性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急医療相談体制の整備(電話 相談部門のワンストップサービス))	【次期への課題】 ・相談件数を増加させるため、精神科救急ダイヤルの一層の周知		

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (先端薬物療法等(クロザピン、m-ECT)を積極的に実施する)	【今期の実績】 ・m-ECT(修正型電気けいれん療法)の実施 ・クロザピンによる治療の実施  【次期への課題】 ・m-ECT の安定した実施に向けての麻酔医の確保 ・クロザピンによる副作用に対する安全対策の徹底	24 · 25 (12 · 13)
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (心理・社会的治療についての実施体制を強化・拡大する)	【今期の実績】 ・患者に対する心理教育・家族教室への取組を開始 【次期への課題】 ・心理教育・家族教室の実践に対する診療報酬算定方法の検討	26 (14)
多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築し、継続実施する (ACTの構築)	【今期の実績】 ・ガイドラインに沿ったACTによる支援の実施 【課題】 ・地域支援を行うための収入の確保	27 (15)
医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与	【今期の実績】 ・医療観察法指定入院医療機関としての適正運用と機能拡充に適したプログラムの提供 【次期への課題】 ・スタッフの一層のレベルアップ	28 (16)
機構内3病院における連携体制 (精神身体合併症への対応:総合病院と の連携体制)	【今期の実績】 ・総合病院内科医、皮膚科医等による往診 ・総合病院緩和医療チームへの支援 ・緊急時の搬送体制の確立 ・こども病院精神科の入院治療への支援 【次期への課題】 ・病院間横断的な検討の実施	10 (31)



### (イ)経営改善

・ 診療報酬の適正請求や医療観察法の指定病床の増床など、収益の増収に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる(施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・診療報酬の適正請求に努めるとともに、医療観察法病棟の増床などによる収益増 【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大 ・救急急性期医療等の拡大(算定外患者を減らす、病床利用率の向上) ・外来患者の増加策の検討	28 • 88 (16 • 82)
遊休施設等の有効活用を図る	【今期の実績】 ・北4病棟を医療観察法の作業療法ゾーンに改修し活用 ・北3病棟を看護学生の実習室として活用 ・南3病棟に男性看護師用の休憩室を設置 ・北3及び南3病棟の個室を夜勤職員用の休憩室として2部屋ずつ計4部屋確保 【次期への課題】 ・北3及び南3病棟のその他空きスペースの活用法の検討	_

#### (ウ) 環境改善

- ・北1病棟の医療観察法病床整備に合わせて、今までナースステーションの一角にあった北1及び北2病棟看護職員の休憩室を、別棟として新築し独立した空間を確保した。
- ・夜勤職員用の休憩室を、3階フロアに4部屋(男女別に2部屋ずつ)確保した。
- ・男性看護師の増加に伴い、男性用の休憩室を3階フロアに増設した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
就労環境の改善	【今期の実績】 ・北1及び北2病棟職員用の独立した休憩室を1部屋ずつ確保 ・夜勤職員用の休憩室を4部屋確保 ・男性看護師用の休憩室を1部屋増設	101 (95)

### 独立した北1、北2病棟職員休憩室



### 男性看護師用の休憩室(南3フロア)



### (4) こども病院

### 〈理 念〉

「すべての子どもと家族のために、安心、信頼、満足の得られる医療を行います。」

\*平成22年4月改定

### <基本方針>

#### 「患者中心の医療サービスの継続」

地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ 質の高い効果的な医療を提供

#### こども病院が目指す方向(図3)

専門病院 安全を重視した質の高い医療
 教育内容の充実が最大目標の一つ
 地域連携 相互支援に基づいた地域医療連携

4 効率的な病院経営 独善に陥らない標準的な経営と改善努力

5 働きやすい病院 スタッフの満足度が高い労働環境

\*平成24年4月改定



# ア総括

こども病院は、県内小児医療の中核病院として、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。平成22年度に、職員公募により病院理念を改定し、病院の目指す医療について職員の意識統一を図った。

平成21年の地方独立行政法人化の後、平成21年4月には常勤2名に加え有期医師をローテートさせスタッフを充実させることで循環器集中治療室を独立した循環器集中治療科へ改組し、静岡市二次輪番制等の救急医療と総合的かつ各科横断的な医療介入、さらに後期研修医教育を担うため総合診療科を新設した。また、精神科部門の入院施設として東2病棟(こころの診療科、36床)を開棟した。

平成22年7月には県内の小児がん患者の約半数が当院を受診している実績が認められ静岡県小児がん拠点病院の指定をうけた。同年9月には診療業務の効率化及び医療スタッフ間での患者情報の共有化等を目的に電子カルテの導入を行った。さらに、同年12月には高次小児救命救急の実績が認められ、小児集中治療センター(PICU)と循環器センター(CCU)を合わせ厚生労働省から小児救命救急センター運営事業の指定を受けている。

平成24年2月には、増大する新生児未熟児医療需要に対応するため、北2病棟(新生児未熟児

病棟)の改修を行い、NICUを3床増床した。

これらの取り組みから、循環器センター、小児集中治療センター、周産期センターに設置した I CU病床やこころの診療センターを中心とした高度・専門医療は県内外から注目を集め、高い評価を受けている。

### イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、期間中平均在院日数が短縮してきているなかで、ほぼ同水準を維持する見込みである。 外来延患者数は、期間中順調に増加してきている。
- ・ 入院単価は、平均在院日数が短縮しており、期間中上昇傾向が続く見込みである。外来単価については、期間中ほぼ横ばいで推移する見込みである。

#### 業務実績

		区分		H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込
		年間入院延患者数	(人)	67, 488	68, 620	65, 603	66, 037	67, 542
	入	患者1人1日当たり単価	(円)	79, 536	91, 028	94, 413	93, 776	95, 482
	院	平均在院日数	(日)	12.6	10.9	10. 2	10.4	10.4
般		病 床 利 用 率	(%)	76. 1	77. 4	73.8	74.5	76. 2
	外	年間外来延患者数	(人)	79, 597	80, 279	83, 321	86, 389	93, 077
	来	患者1人1日当たり単価	(円)	14, 302	15, 192	14, 580	13, 210	13, 191
		年間入院延患者数	(人)	8, 817	10, 408	7, 939	9, 300	9, 427
	入	患者1人1日当たり単価	(円)	14, 512	16, 376	15, 869	25, 651	25, 651
精	院	平均在院日数	(日)	140. 2	144. 6	189. 4	178. 7	163. 2
神		病 床 利 用 率	(%)	67. 1	79. 2	60.3	70.8	71. 7
	外	年間外来延患者数	(人)	10, 687	11,682	11, 383	11, 416	11, 750
	来	患者1人1日当たり単価	(円)	6, 237	5, 932	5, 897	6, 044	6, 044

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。一般の平均在院日数は、NICU、

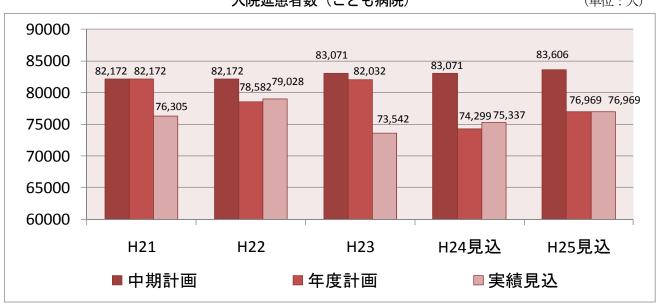
GCU、MFICUを除いて算定。病床利用率は、一般243 床、精神36 床で算定。

※H24 見込は、9月末実績による年間見込。H25 見込は、11月30日現在の見込数字。

#### 患者数の推移(21年度実績~25年度見込)

# 入院延患者数 (こども病院)

(単位:人)



### 外来延患者数 (こども病院)

(単位:人)



・ 紹介率は、100%に近い実績を維持している。逆紹介率については、伸びが鈍化しているが、 今後も他医療機関との連携を強化し、向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

(単位:%)

区 分	H21	H22	H23	H24 見込	H25 見込	備	考
紹介率	87. 9	96. 0	99. 7	99. 5	95. 0		
逆紹介率	30. 7	31. 5	34. 2	34. 2	34. 2		

#### ウ特記事項

#### (ア) 医療

- ・ カテーテル治療(アンプラッツァー)など新しい治療方法の導入や、小児循環器集中治療医の育成のための研修プログラムの実施、一般電話回線を利用した遠隔エコー診断など、高度先進的治療の提供体制の整備に努めた。
- ・ 新生児未熟児科医の増員、妊娠管理から治療までのシステム構築の一環として県内の医師看護師に 対する講習会の開催など、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度な先進的治療の提供に努め た。
- ・ 児童精神科病棟(36 床)の開設により外来から入院まで一貫した治療体制を整えるとともに、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画しネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、児童精神科分野における中核的機能の発揮に取り組んだ。
- ・ 救急総合診療科、PICU (小児集中治療科) を開設し小児救急医療への対応を強化するほか、地域の 救急医療機関や消防機関との検討会を開催するなど、24 時間 365 日を通して、重篤な小児救急患 者の受け入れ体制の強化に努めた。

平成23年9月には静岡県救急医療功労の県知事表彰を受けた。

- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催し、 小児がんの高度な集学的治療へ積極的に取り組んだ。
- ・ 地域医療の支援については、医療機関に対して医師を派遣したほか、地域の医療機関等の看護師、 保健師への実習研修の受け入れ、講演会やセミナーの開催などに取り組んだ。
- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や海外研修医の受入、レジデントの臨床 指導のためにオーストラリアから医師を招へいするなど教育機能の充実に努めた。
- ・ 県健康福祉部と県教育委員会主催の「こころざし育成セミナー」に協力(平成22年度)して、医 学部進学を考えている高校生に対し、講演会、手術シミュレーション等の体験学習を実施した。

※()は24年度実績(暫定版)のNo(以下同様)

	※()は24年度美績(智定版)のNo(.	以下问你
計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
小児重症心疾患患者に対し、24 時間を通して高度な先進的治療を提供する体制を整備する (小児重症心疾患患者への先進的治療の提供(体制整備、専門医等の育成))	【今期の実績】 ・循環器集中治療科の新設 ・小児循環器疾患治療スタッフの教育研修の充実 ・心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ・高度な小児心臓手術の実施  【次期への課題】	30 (18)
地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに新生児に対して高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する	<ul> <li>・医療に見合った診療報酬制度の提案</li> <li>【今期の実績】</li> <li>・新生児未熟児集中治療医師の増員</li> <li>・地域の医療機関との連携システムを構築</li> <li>・周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施</li> <li>【次期への課題】</li> <li>・医師の確保</li> <li>・周辺病院の産科閉鎖等による、地域の周産期医療弱体化への対応</li> </ul>	31 · 32 (19 · 20)
精神疾患を持つ小児患者やその家族 に対して、児童精神分野における中核 的機能の発揮に努める	【今期の実績】 ・小児精神科病棟の運用開始 ・こどもの精神保健ネットワークの中核機能を担う拠点病院として連携推進事業の実施  【次期への課題】 ・ネットワーク事業の学校等への周知(認知度の向上)	33 · 34 (21 · 22)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
24 時間を通して重篤な小児救急患者の受け入れ体制を強化するとともに、 患者の重症度に応じ、地域の医療機関 と分担して受け入れる体制づくりに 協力する	<ul> <li>【今期の実績】</li> <li>・救急総合診療科の開設</li> <li>・静岡県の小児三次救急を担う</li> <li>・静岡市の二次救急輪番制への継続参加</li> <li>・救急隊・ドクターへリの受入れ</li> <li>・全国から注目を集めるPICU(小児集中治療室)</li> <li>【次期への課題】</li> <li>・小児救急医療体制充実への関与、支援体制の確立</li> <li>・医療に見合った診療報酬制度の提案</li> </ul>	35 (23)
小児がん診療の拠点病院として、高度 な集学的治療へ積極的に取り組む	【今期の実績】 ・院内の各診療科、他職種と連携し高度な集学的治療へ積極的に取り組んでいる ・静岡県小児がん拠点病院の指定 【次期への課題】 ・細胞処理室の整備	37 (25)
機構内3病院における連携体制 (周産期医療への対応:総合病院との連 携体制)	【今期の実績】 ・母体管理など総合病院と連携し対応 【次期への課題】 ・人材の交流体制の確立	10 (31)
診療情報管理機能の整備を図る (電子カルテシステムの導入による業 務の効率化・チーム医療の推進)	【今期の実績】 ・電子カルテシステムを導入し運用を開始 【次期への課題】 ・電子カルテへの習熟と、より効率的な運用体制の検討・整備、管理体制の確立	39 (35)
県民向け・医療機関向け等、情報の 受け手を意識した分かりやすい情 報発信機能体制の整備を図る (県民向けイベントへの参加)	【今期の実績】 ・ハッピース!!プロジェクト(子育て支援イベント)に平成22年度から毎年参加  【次期への課題】 ・より効果的なPR方法の検討	43 (37)
教育研修機能の充実を図る	【今期の実績】 ・マンツーマン指導による後期研修医プログラムの実施 ・海外との交流(タイ、オーストラリア、ベトナム等)により、研修医の派遣・受入、指導医の招へいを実施 【次期への課題】 ・医師の多忙化を解消し、研修機会を確保 ・専任の教育担当医師の確保	47 (43)
地域の病院への医師派遣や地域の初期救急への応援	【今期の実績】 ・医師不足の公的病院に医師を派遣 【次期への課題】 ・医師の確保	62 · 63 (60 · 61)

#### 救急の体制







ドクターヘリ

ドクターカー

西館救急外来

\*ドクターカーは平成22年6月に更新した。

#### (イ)経営改善

- ・特定入院管理料(NICU・MFICU 加算、小児入院管理料1、新生児回復室入院管理料等)、急性期看護補助体制加算等の取得。
- ・ 医師事務作業補助体制加算をランクアップし、診療報酬の増収を図った。
- ・ 省エネ対策として平成22年度からESCO事業(企業が省エネルギーの包括的サービスを行う事業) を導入し、省エネ対策工事を実施、23年度から運用を開始した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・特定入院管理料(NICU・MFICU 加算、小児入院管理料1、新生児回復室入院管理料児童・思春期精神科入院医療管理料等)の取得・急性期看護補助体制加算等の取得・医師事務作業補助体制加算を25:1から15:1ヘランクアップ	88 (82)
	【次期への課題】 ・施設基準の維持・拡大	
省エネ事業による経費の節減	【今期の実績】 ・光熱費の削減を目指し、ESCO事業を実施 【次期への課題】 ・省エネ対策の実現、検証 ・職員の省エネ意識の高揚	_
患者家族や職員に対するアメニティ の充実	【今期の実績】 ・院内売店のリニューアル	_

### (ウ) 環境改善

- ・ 医師宿舎の建て替え工事を実施した (平成23年度)。
- ・ 院内売店をコンビニ形式にリニューアルした (平成21年度)。
- ・ 医療秘書を13人から18人に増員し、医師の負担軽減を図った(平成23年度)。
- ・ 看護師2交代制を導入(平成23年11月から試行、平成24年4月から本格実施)。
- ・院内保育所の整備計画を検討中である。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医師宿舎の改築)	【今期の実績】 ・医師宿舎の建て替え工事を実施(世帯用20戸、 単身用21戸) ・院内保育所のリニューアル計画の検討	98 (92)
	【次期への課題】 ・老朽化した医師宿舎の取扱いの検討	
医師・看護師の就労環境の改善、向上 を図る (医療秘書の配置)	<ul> <li>【今期の実績】</li> <li>・医療秘書(医師事務作業補助者)を13人から18人(H25.1月末)に増員し、医師の負担軽減を図った。</li> <li>・看護師2交代制の実施(H23.11月から試行開始、H24.10月現在NICU・CCUを除く全病棟で本格実施)</li> </ul>	97 · 99 (91 · 93)



(医師宿舎:世帯用)



(医師宿舎:単身用)

W 3 項目別実績 第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 県立病院機構は、定款で定める業務について、その質の向上に取り組むこと。また、 の成果を県民や他の医療機関と共有できるよう情報発信すること。

自己評価		(実績に対する評価) クリニカルバスについては、常に内容を見直す体 利を維持しており、適用率も高水準にあり、患者に 対してより良い医療を提供しているため、中期目標 が十分達成されている。 (課題) 今後も引き続き新規バス作成、既存バスの見直し を行い、より良い医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。	(実績に対する評価) DPC分析ソフトの導入により他施設との比較を行うことが可能となり、施設基準取得状況・算定状況、在院日数等のベンチマーク分析を実施しており、中期目標が十分達成されている。 (課題) 今後は、プロバー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。	クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科に あっても、導入が可能ものについては、積極的に導 入しており、中期目標が十分達成されている。 A	分析ソフトを利用しての適正なコーディングを実施 しているので、中期目標が概ね達成されているが、 B ソフトによる分析結果の現場へのフィードバックを 更に強化する必要がある。	各病院において継続的な対策研修の実施体制が確立 していることで、中期目標が十分達成されている。
業務の実績			・DPC分析ソフトを用いて他院とのベンチマーク分析、当院のDPC 分析を行った。他院とのベンチマークについては、当院で取得している施設基準、特別食加算等の第定状況を比較した。また、転院庭例の平均在院日数について比較を行った。当院のDPC分析については、DPC指求額や入院期間率等の推移を分析した。 全自病的で独告書を基に、後発医薬品使用率やDPCが小率を全国の自治体病院と比較した。	・クロザビンによる治療を開始するにあたり、新規クリニカルバスを導入した。     平成24年度稼働クリニカルパス 4件 (9月末現在)		金・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行い、安 行っている。       指す。     集会全国共同行動のモニター施設としてレベルの向上を目 (1000年)       指す。     集団、
行動計画		運用実績を通じてエビデンス に基づく リニカルバスの新 損作成ペクリニカルバスの新 より、医療の質を確保し入院 中の経過を分かりやすく説明 できるクリニカルバスの適用 率を高める。	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適直たクリニカルバスを作成し、導入する。	DPCの記 診療ヘフ、 め、診療信 備する。	医療安全室及び感染対策委員 会等を中心に、マニョアルの 見直しや研修会を通じて院内 見にな研修会を通じて院内 を実施する。 を実施する。
区分		绕	黎	r) r) N	چە ك الا	3 海院(企)
NO	第1-1 医療の提供 機構の全職員は、県立病院が担う 機制の全職員は、県立病院が担う を割と責任を認識するとともに、基 本的な診療姿勢の主旨を理解し、医 療の提供にあたってはその実践に取り組む。	(1) 基本的な診療姿勢 患者自らが選択し納得できる よう、患者への十分な説明と同 意を徹底するとともに、科学的 根拠に基づく医療を安全に提供 するため、医療技術の向上、 チーム医療の推進、医療安全対 第の充実などに取り組む。	61	м	4	ιρ
中期目標	られる基本 院が担う医 質の向上に 域から信頼 こと。	(1) 基本的な診療姿勢 診療に当たっては、患者が 影像で当たっては、患者が 見の治療効果を得らかるよう、患者との信頼関係の構築 に努め、科学的根拠に基づく 最適な医療を患者への十分な 説明と同意のもとに安全に提 供すること。				

自己評価	継続的に患者満足度調査を実施し、おおむね高い満 足度を得ていることで、中期目標が十分達成されて いる。	[総合] 継続的に依頼を受ける体制を維持している。 (課題) ・	中期目標期間を通じて継続的にセカンドオピニオンを受け入れており、中期目標がおおむね達成されている。	【総合】紹介率、逆紹介率ともに過去最高水準となり、地域の医療機関との連携が進展しており、中期目標が十分達成されている。また、情報通信技術を活用した地域医療連携ネットワークシステム整備・石用しており、この面でも中期目標が十分達成されている。		
業務の実績	3 病院において、毎年度患者満足度調査を実施している。     調査 実施 ( に : : : : : : : : : : : : : : : : : :	とカンドオピニオン数     (単位:件)       区分     H21     H22     H23     H24見込 H25月込 H25月込 H25月込 H25月込 H25月込 H25月 H25       ※ 合     103     112     103     100     100       ことろ     -     -     -     -     -       こども     -     54     -     -     -		[総合] 紹介率、逆紹介率ともに過去最高水準となった。平成21 年度から平成24年12月までに約790の病院、2400余の診療所等と の間で紹介・逆紹介を行った。 また、精動通信技術を活用した地域医療連携ネットワークシステ ム 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」(ふじのくに ねっと)を平成22年度に整備し、以降順調に活用している。平成 24年9月現在、7つの開示施設と91の参照施設が参加している。		[総合] N013に記載 【こども】N029に記載
行動計画	・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	セカンドオビニオン外来を充実する。		【総合】地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。		
· · · · ·	3 精院(公園)	各病院		各病院		各病院
ON	σ	7		(2) 県立病院が担う役割 県立病院が担う高度・特殊・ 専門医療が確実に提供できるよう。 も、地域の医療機関との相互連 携や機能分担を進める。併せ て、情報技術を活用した医療連 携や疾患ごとの地域連携ネット ワークづくりを進める。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 療	ア 循環器疾患については、小 児は県立ことも病院が、成 人は県立総合病院がそれぞ れ県内の中核病院の機能を 果たしていく。
中期目標				(2) 県立病院が担う役割 県内医療機関の中核的病院と して地域連携に努め、他の医 療機関では対応困難な高度又 は特殊な医療など、県の保健 医療施策として求められてい る医療を職実に提供するこ と。	(3) 県立病院が重点的に取り組む 医療 がん、脳卒中、急性心筋梗 塞、精神疾丸たどの医療、救 急医療、周産期医療及び小児 医療の分野における高度医療 又は急性期医療に取り組むこ と、また、結核、エイズ、新型イ ンフルエンザ等の感染症医療 や難病医療、移植医療等を提 供すること。	

自己評価	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携、協力体制を密に対応が行われ、中期目標が十分達成されている。			【総合】患者の受入、他の拠点病院との連携を維持 しており、中期目標が十分達成されている。	検討のための関係機関を含めた組織作りが必要となっている。
	往な 加		М	を処難静 V	9 th
業務の実績	「総合・ここ名間での連携】 ・身体合併症患者の診察のため、総合病院の内科医が定期的に往 診を実施した。また、皮膚科医も応援体制が確立されている。な お、緊急時には、総合病院へ搬送することとしている。 ・総合病院の緩和医療チームにこころの医療センター医師が参加 している。	【総合・こども間での連携】 ・総合病院から切迫早産等によりこども病院への搬送が行われた。 た。 ・こども病院周産期センターより母体の急変により総合病院への 概述が行われた。	<ul><li>【こころ・こども間での連携】</li><li>・児童の措置入院等、こども病院での受入れ困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</li></ul>	【総合】結核入院患者は減少し続けているが、結核病棟の体制を縮小することなく受け入れに努めた。エイズ患者はエイズ中核拠点病院である市立静岡病院と県立こども病院との連携、難病は難病拠点病院である浜松医科大学付属病院や神経専門病院である静岡医療センター等との連携により対応した。	【こども】肝移植については、チームを組んでの対応が必要となるため、県立総合病院、県立静岡がんセンター他との連携体制の構築が必要となり、現状そのための検討を進めることとしている。今期内の実施実績はない。
行動計画	周産期医療や精神身体合併症 等に対して、機構内3病院が 連携し、より最適な医療の提供を行う。			「総合】結核病棟を維持する。また各種感染症や難病は 界内医療機関との連携・協力 関係を進めて対応する。	【こども】実施可否の検討を進める。
区分		各病院		各病院	各病院
OZ		01		11	
中期計画	イ 周産期医療や精神身体合併 症などについては、各県立 病院が連携して取り組む。			ウ 結核指定医療機関、エイズ 地点病院及び難病医療協力 病院等として感染症医療や 難病医療に着実に取り組 む。	エ 先進的医療である移植医療 のうち、肝移植の実施の可 否について検討を進める。
中期目標					

自己評価		24時間365日体制で高度医療を提供する体制を維持しているので、中期目標が十分達成されている。	チーム医療の推進を図る検討を行っているので、中期目標が十分達成されている。 A	課題である医師、看護師、リハビリスタッフの確保 とともに、血管内治療のできる専門医も確保する必 要がある。引き続き、医師、看護師、リハビリス タップの確保に努力し、ストロークケアユニット (SCU)等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備 を図る必要があるが、 脳血管疾患治療等の推進が 期待できる体制が整いつつあるため、中期目標が概 れ達成されている。	相談業務を総括する総合相談センターを組織上明確化して運用しており、中期目標が概ね違成されている。1、4、6。1、7、6。1、7、6、6、6、7、6、6、7、6、7、7、7、7、7、8、8、8、8、8、8	化学療法、手術、放射線治療とも充分に提供できているため、中期目標が十分達成されている。 平成22年度の内視鏡室の改修により、検査・治療 の環境に向上した。放射線治療器械の増設は平成23 年2月から稼働している。 引き続き麻酔科医、放射線治療器域の増設は平成23 解保に努める。 また、これら高度な医療機能を地域に開放する取 また、これら高度な医療機能を地域に開放する取 また、これら高度な医療機能を地域に開放する取 また、これら高度な医療機能を地域に開放する取	外来化学療法室の機能拡充により、患者サービス の向上と件数を維持しており、中期目標が十分達成 されている。 引き続き腫瘍内科の医師の確保に努める。	
業務の実績		・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(循環器内科単独の医師当直動務及び看護師の常時2対1の交代制動務)により最大14在を運用し、病床利用率は20%を超えている。 ・平成21年度には、不整脈専門をを迎え、不整脈外来を再開し、カテルによる不整脈治療も本格的に再開した。 CCU/ICU終働率 区 分 H21 H22 H23 H24見込 H25見込 接働率(%) 89,0 100,8 98 1,051 1,000 900 18 5 88 1,051 1,000 900 18 1 4 13.8 1 13.8 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 13.9 1 11.3 13.4 13.8 1 13.9 1 13.9 1 14.9 13.8 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 13.9 1 13.9 1 13.8 1 13.9 1 1	・関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会(総合血管 チームカンファレンス)を平成24年度は3回(9月末現在)開催 し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携方 法を検討している。	<th color="2" color<="" rowspan="2" td=""><td>・患者からの相談に対応する「総合相談センター」を組織上明確 化した。センターには、がん相談窓口に専従の認定看護師を配置 し、患者に対する相談・支援体制を維持している。 ・がん患者カウンセリング料の施設基準を取得した。 がん相談件数 区 A H2 H2 H2 H24 H24見込 H25 L2 がん相談 1,467 1,566 1,466 1,500 1,500</td><td>・化学療法も手術も放射線治療も充分に稼働している。 ・ 麻酔科医、消化器内科医の増貴は実現できなかったが、H221c腫瘍内科医を1名権保できた。</td><td>・平成21年度に外来化学療法センターの改修によりベッド数を11 床増床し、余裕のある点滴を行えるようになるとともに、従来各 外来診察室等で行っていた静脈注射、皮下注射についても機能の 活実した同でかっている。 ・平成22年度に腫瘍やで行っている。 ・平成22年度に腫瘍内をと1名確保できた。 ・専門の認定看護師と認定薬剤師を配置し、より安全・安心な医 療の提供に努めている。</td></th>	<td>・患者からの相談に対応する「総合相談センター」を組織上明確 化した。センターには、がん相談窓口に専従の認定看護師を配置 し、患者に対する相談・支援体制を維持している。 ・がん患者カウンセリング料の施設基準を取得した。 がん相談件数 区 A H2 H2 H2 H24 H24見込 H25 L2 がん相談 1,467 1,566 1,466 1,500 1,500</td> <td>・化学療法も手術も放射線治療も充分に稼働している。 ・ 麻酔科医、消化器内科医の増貴は実現できなかったが、H221c腫瘍内科医を1名権保できた。</td> <td>・平成21年度に外来化学療法センターの改修によりベッド数を11 床増床し、余裕のある点滴を行えるようになるとともに、従来各 外来診察室等で行っていた静脈注射、皮下注射についても機能の 活実した同でかっている。 ・平成22年度に腫瘍やで行っている。 ・平成22年度に腫瘍内をと1名確保できた。 ・専門の認定看護師と認定薬剤師を配置し、より安全・安心な医 療の提供に努めている。</td>	・患者からの相談に対応する「総合相談センター」を組織上明確 化した。センターには、がん相談窓口に専従の認定看護師を配置 し、患者に対する相談・支援体制を維持している。 ・がん患者カウンセリング料の施設基準を取得した。 がん相談件数 区 A H2 H2 H2 H24 H24見込 H25 L2 がん相談 1,467 1,566 1,466 1,500 1,500	・化学療法も手術も放射線治療も充分に稼働している。 ・ 麻酔科医、消化器内科医の増貴は実現できなかったが、H221c腫瘍内科医を1名権保できた。	・平成21年度に外来化学療法センターの改修によりベッド数を11 床増床し、余裕のある点滴を行えるようになるとともに、従来各 外来診察室等で行っていた静脈注射、皮下注射についても機能の 活実した同でかっている。 ・平成22年度に腫瘍やで行っている。 ・平成22年度に腫瘍内をと1名確保できた。 ・専門の認定看護師と認定薬剤師を配置し、より安全・安心な医 療の提供に努めている。
行動計画			·的血管疾患 3環器内科、 3科、心臓血 3に連携し 3推進を図	対する急性 を整備する 療への情報 に向けた取。。		がんに関する相談支援の窓口 を一本化し、情報の提供・発 信の強化を図るため、がん相 信ののスタッフを増強す る。	i強やかに後 わる体制や が新室、 DA クッフを DA クッフを	外来化学療法センターの拡充 と環境整備を行うとともに、 スタッフの専門性を向上す る。
区分		《中	総	<b>黎</b> 包	领 《 《	<b>₫</b> □ <b>¾</b>	黎	
ON	行名	 ななて最図慣をの強 型 13	( 2 2 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ン関アン 対急能 51	别 16	17	18	
中期計画	オ 各県立病院は医療の提供に あたり、次のとおり重点的 に取り組む。	(グ) 県立総合病院 ・ 急性心筋梗塞、脳枠 中等の循環器疾患において、24時間を通して いて、24時間を通して 高度な専門的治療を提 供する体制の充実を図 る。加えて、生活習債 病としての危険因子を 管理するため、地域の 医療機関との連携を強 化する。	院として、手術及び化 半療法、放射輸嫌法を 組み合わせた高度な集 半的治療(各分甲の申 門医が協力して治療に 当たるにも、各種供す	もの本面を報酬するので もので、地域の医療機関 等と連携した緩和ケイ や終末期医療を提供し ていく。 ・ 面縁な被急患者に対 応するため、複合教急 センターに着じた機能	か日拍し、政備的が、 大田和の (本本) を (本本) で (本来) で (本本) で			
中期目標								

即場	・被急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討 し換急患者の受入体制を維持しており、中期目標が 十分達成されている。 ・平成3年度に向け被急科医師の確保の見通しが 立った。 ・医師の負担軽減策を検討する。 ・教命教急センダー設置、運営が円滑に行われるよ うに取り組む必要がある。 救急車の受入を断らない体制が維持されており、 中期目標が十分達成されている。 さらに救急科医師の確保に努めたい。	「精神科急性期ケアマネジメント」の継続、訪問 看護等の取組みを進めたことにより、平均任院日教 の短縮を図り、特に医療観察法病床を除いた平均在 院日数に目標である100日間後まで近付いており、 中期目標が十分達成されている。 ※入院期間が1年以上となる患者数が、23年度から 24年度にかけて増加しているのは、入院期間が長期 化する傾向にある医療観察法病床への入院患者数の 増加とリンクしており、この増加分は想定されたも のである。	早期治療、早期過防の実践により、教急病様である南2病様、急性期病様から25年度に教急病様へ転機する北2病様ともに、求められる施設基準の水準を清たしており、中期目標が十分達成されている。	県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、教急ダイヤルとしての責務を果たした。また、相談件数も著実に増加し、広報活動の成果また、和談件数も着実に増加し、広報活動の成果A が表れており、中期目標が十分達成されている。
業務の実績	- 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整え ・ 検急専門医の確保について、 期(うち専門医20名を確保できる見通しが立ち、教命教急セン 対し、 対し、 を引動を対して、 を引力を を力を を	・ 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、 人際中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22 年度から取組を始めた「精神保健電子と中学がメント」を継続 また、在宅において、より的確な支援を行うため、訪問看護の 光実を図り、看護師に加えて精神保健福社士や作業療法士などを 含めた複数訪問を積極的に実施している。       平均在院日数 下よら患者を 下よる患者を 下よる患者を 下よる患者を 上は上入院 43 1.715 100.0 100.0 100.0 104以上入院本数     111.7 100.0 100.	各病棟では、「新規患者率」、「新規患者3ケ月以内在宅移行率」についての施設基準を、いずれも満たしている。    (単位:%)   (単位:%)	県内全域を対象とする「精神科牧急ダイヤル」を開設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 精神科牧急ダイヤル件数 (単位:件) (単位:件) (単位:件) (単位:件) (日 分 H21 H22 H23 H24見込 H25見込 から時間が 1.840 1.747 2.012 2.600 5.600 5.5時間外 1.827 1.277 1.546 1.900 2.100
連卡博力	医師の増員を図るとともに、 勤務体系にも配慮した当直・ 日直体制を整備する。 被急車の受入を確実にできる 診療体制を維持する。	精神科教急・急性類医療~の 対応機化を図めため、診療科 女制や全種な相関のび在宅医療 女機体制を養備する。 また、入院患者を教急・急 性期を中心とした重症者に特 化し、平均在院日数の短縮を 図る。	新たな入院患者が90日以内に 国院できるよう促進し、精神 国院できるよう促進し、精神 科教急入院料及び精神科急性 期治療清棟入院料の施設最適 全維持するとともに、急性期 清糠から教急病様へのランク アップを目指す。	精神科校急医療相談など総合 的な医療相談の体制整備を図 るとともに、広報誌等を活用 した P R を行い利用推進を図 5 5。
区分	(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	r) r) NO	) ) ) )	r) r) N
ON	19	(4) 海及により、 ・201年につるを受力を必の医療を受力を必要を受けたの医療を受けるとの を受け入れ、教育とは、教育な力を を受け入れ、教育をなる を受け入れ、教育をなる を受け入れ、教育をなる を受け入れ、教育をなる を受け入れ、教育を を受け入れ、教育を を受け入れ、教育を を受け入れ、教育を を受ける。 ・他の医療機関では ・他の医療機関では対 に、他域の安かに対 ・人院患者が早期では ・人院患者が早期に ・人院患者が早期に ・人院表表を ・大院患者がよりた。 ・人院患者が早期に ・人院表を ・大院のの ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大のなったが を を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大院を ・大のためた。 ・大院を ・大のなったが を を ・大のなからして ・大のなからして ・大のなが ・大のなが ・大のためる ・大のなが ・大のが ・大のなが ・大のが ・大のが ・大のが ・大のが ・大のが ・大のが ・大のが ・たが ・大のが	22	23
中期目標				

自己評価額明	21年7月のm-ECT開始以後、治療件数は順調に増加し、当センターの施術として定着しており、中期目標が十分達成されている。 特に県中部、富土地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患		定期的なプロジェクト会議の開催や、スタッフ間 の議論を共有化させるための院内研修会の実施によ り、職員や関係者への着実な浸透を図ることができ ている。 また、全国大会の開催により、先進的な事例・情 み 報の収集や意見交換等を行うことができた。 以上のことから、中期目標が十分達成されてい る。	21年度に実施したガイドラインの作成とモデル ケースでの検証を受け、ACTとしての活動を開始 し、その後、着実に事業を進めており、中期目標が 十分達成されている。	指定人院医療機関として、21年8月に2床での運用開始以際、法令に治った適正な運用が行われている。また、施設のが式により機能の充実が図られ、 島本ー人一人に対したきめ細かな形像プログラム の作成と、県内の対象患者の受入れが進んだ。 年間を通じて満にに近い状態が続いており、収益 もほぼ当初見込み通りに推移しているため、中期目 標が十分達成されている。
業務の実績	+ m-ECTの治療は、21年7月に開始した後、毎年着実に実施 m-ECT実施件数 区 分 経件数(和) 実患者数 中部地区 (静岡市) 東部地区 その他 R2 分 経件数(中) 実患者数 中部地区 (静岡市) 東部地区 その他 R2 分 経件数(中) 実患者数 (16) 2 0 2 R2 28 27 22 (13) 3 1 1 R2 36 37 30 (24) 4 3 0 R2 38 1 1	・クロザピンによる治療体制が整い、22年4月27日、クロザリル 適正使用委員会において、CPMS(クロザリル患者モニタリン グサービス)登録機関として承認された。 ・中収23年度に作成したクリニカルバスに基づき、6月から治療 を開始し、これまでに8名の患者に投与している。現在5名に対し て継続投与中である。	22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトについて、 33年度から心理・社会的治療プロジェクトに発展させ、認知行動 資法に加えて、新たに心理教育・家族教室への取組を実施してい 5。 本事業へのスタッフの理解を深めるために、心理・社会 的治療プロジェクト会離を定期的に開催(2カ月に1回) 明係者の認識の共有化を図るための院内研修会の開催 ・平成24年3月、県下初の全国大会「心理教育・家族教室 ネットワーク第15回研究集会」を浜松市で開催	21年度に作成したガイドラインに沿って、22年2月からACT こよる支援を開始した。 これまでに延10名の患者への支援活動を実施し、うち1名は安 さした在宅生活に移行したため支援終了、1名は死亡により終 了、現在は入院患者4名、外来患者4名への支援を継続している。	21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始し、23年3月末(には2床への増床した。
	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法))を積極的にろ無値する。	70	N,	在宅医療支援部を中心とした 包括的在宅ケア (ACT)チー Aによる退院支援と手軍い3チー 時間385日サポート体制による 退院後の地域生活支援モデル ろ を構築し、継続実施する。	医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮するよう体制強化を図る。
NO KA	24	77	7)	7)	83 83
N 画桿錐中					
中期目標					

自己評価説明		T .		特に地域医療機関を対象とした研修会、検討会の開催について病院をあげて取り組み地域の医療機関のレベルアップに寄与していることから中期目標が十分に達成されている。		・教育現場からの要望をうけ、養護施設精神保健講 座、巡回相談を実施する等県内におけるこども精神 保健ネットワークの中核機能を果たしていることで 中期目標が十分達成されている。
業務の実績	・小児重症心疾患患者に3 め、身体への負担が小さ の体制整備を行った。 ・平校21年9月「動脈管腎 (県内で1番目)し、治済 がテル治療実績 区分 H21		- ・平成24年2月に病棟改修工事を実施、N1CU病床数を12床 あら15床に増床し、新生児未熟児医療の需要増に対応してい る。また、改修工事に合わせ、患者監視システムも最新の機器に 更新した。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	地域医療機関を対象に、症例検討会、出張講習会、『羽衣セミ ナー』等を毎年度開催している。 これら事業により、より円滑な患者の受け入れ、引き渡しを進め ている。     検討会等の参加者数実績(単位:人)		<ul> <li>・事業参加している全国11都県(平成24年3月現在)の拠点病院 ゆーつとして、平成20年度のモデル事業開始当初から参加。 告増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学 校・地域との連携強化に努めた。</li> </ul> A
行動計画	心臓カテーテルによるインタ ベンション (内科的治療操作) の実施件数の増加を図る。	重症心疾患診療体制の充実を 図る。	新生児未熟児科医の増員など により、高度新生児医療の強 化を図る。	地域の産科医療機関との検討 会・研修会を通じて、産科医 の診断能力向上を支援する。	県内の児童精神科医療の中核 機関として、外来・入院治療 の充実を図る。	厚生労働省の「子どもの心の 診療ネットワーク事業」に静 岡県の拠点病院として参加す る。
0 区分	が が り	30 37 38	18 건 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기 기	32 17	が え い に	94 77 79
N ■掲輯中	(グ) 県立こども病院 ・小児重症心疾患患者 に対し、24時間を通し に対し、24時間を通し て高度な先進的治療を 提供する体制を整備 をの加えて、小児心疾 息治療のリーディング 施設をして専門医等の 音成に突める。		構築に努めるととも 高度な光性的があるととう。 海域な光性的治療を提 共するための存制を技 大する。 ・精神疾患を存り小児 患者やその家族に対して に、、児童精神科分野に は、カイスをは、多年を 神に努める。 ・24時間を通して重算 かった規模に適して がある中核的機能の発 指に努めるが がある中核的機能の発 (では、最もの最大のより。 が、現場の機能の発 をは、ないた。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、			σ
中期目標						

	自己評価	・特に全国的に注目を集めているPICUはドクターへり等による34時間365日の受け入れ体制をとっており、小児教急医療の最後の砦として高い評価を得ていることから中期目標が十分達成されている。静岡市2次牧急輪番病院に参加(教急総合診療科が担当)しており、地域の教急医療に買能している。		県内小児がん患者のほとんどに対応し、固形がんに ついても脳神経外科等他科との連携のもと対応して いることで、中期目標が十分達成されている。
1		年 信 名 A	<b>≫</b> ~₩₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩	N :45 - KINDON
1	業務の実績			1177
中期   一	行動計画		患者の重症度に応じた地域の 医療機関との機能分担を推進 するため、地域の教急医療機 調や消防機関との検討会を定 期的に開催する。	静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨盤・大着血幹細胞・臍帯血移 種、末着血幹細胞・臍帯血移 種などの治療法を利用して対 応する。
	区分	.₽ Ž\)	ب <u>ہ</u> ریڈ	್ಕಾ ಸು
型5	ON	35	36	37
中 酸 甲	甲指附中			
	中期目標			

自己評価	100.77				【総合】 厚生労働科学研究などに参加することを 通じ、医療水準の向上に努めており、中期目標が十 引き続されている。 組を行っていく。
業務の実績			・電子カルテンステムが平成22年9月21日に本格稼働に至り、病 所内 チーム診療スタップ間データ共有や、画像や検査結果を 患者に提示してのインフォームドコンセントが可能となり医療の 質向上に寄与できた。 ・業務の効率化としてカルテ検索業務の大幅な減少や電子カルテ 端末上より検査画像の参照が可能となりフィルムの削減の効果が あった。	・総合病院において原価計算システムを導入し、検証や見直しを 図りながら定期的にデータを蓄積した。 ・長期的にデータの推移を比較することで経営状況の分析が可能 となる。 現システムでは、他院とのベンチマーク比較が出来ない点が課 題である。	総合] - 厚生労働科学研究への参加 分担研究 H21, H22, H23各4件、 - 早生労働科学研究への参加 分担研究 H21, H22, H23各4件、 - 平成22年度から、厚生労働省の「医療の質の評価・公表等推進事業」の対象団体351体のうち、日本病院会の30病院の1病院として事業に参加することとし、11の指標データの提供を行った。    医薬品受託研究事業費・契約件数   11の指標データの提供を行った。   (単位: 千田)
一样帽子	FEET 1 4 600 F 1	診療情報管理機能の強化を図るため、診療情報管理機能に専門的に携わる職員を配置する。	人により、業 - ム医療の推 でも病院】 - でも病院	公的病院としての説明責任・透明性の確保に努める。 (不採算疾患例の明示、原価計算)	・医療水準の向上と院内にお ける医療の質の高度化に管す るため、新薬開発や臨床研究 などへ参画する。 ・臨床試験管理センターによ る臨床研究の支援
0 区分		3.病院 (総務)	3病院 (企画)	3病院 (企画)	4
ON ■掲載中	2 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上に寄与すると ともに、県立病院として医療の質の 向上や人材育成のため、病院が有する る医療資源の活用、院外への情報発 信、他の機関との連携を図りなが ら、調査及び研究に取り組む。ま た、それらを円滑に進めるため、診 療験の電子化等の医療情報基盤を整 備する。	(1) 診療等の情報の活用 診療験等医療情報の電子化や 診療機能の方実を図るなど、エ ビデンスを編積し、カンファレンス、臨床研修、臨床研修、臨床研究等に おいて活用し医療の質の向上を おる。また、学会、講習会、研 完全等へ情報発信しやすい体制 を整備する。	39	40	41
中期目標	2 医療に関する調査及び研究 本県の医療水準の向上や県民の 健康意識の醸成が図られるよう、 調査及び研究に取り組むこと。	<ul> <li>(1) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を埋立病院で程序で展出 報を埋立病院で程子可多医療 の質の向上のために括する医療 をしまれ、他の医療機関へ情 報程供すること。</li> </ul>			

自己評価競明	公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができたと同時に、県立病院の取組みについてもPRすることができ、中期目標が十分達成されている。	県民向けのイベントへ参加することにより、多くの 馬民にこども病院を知っていただく機会となった。 強法化以降開催している。 がスピクルは、多数の参加者に、病院のが耐みで取 組、最新の医療等の情報を提供する場となり、未 者からも好評を得ている。以上により、中期目標が 十分達成されている。	ホームページの構築、構築後はホームページの更新 及びアクセス件繋が順調な伸びを示し、情報提供は 着実に推進しており、中期目標が十分達成されてい る。
	## 1	てが参れ 。との院県 ト	□     □       □<
	・総合病院のがんに関する講演会、こころの医療センターの精神 保健福祉ボランティア養皮講座、こども病院の小児疾患に関する いる。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「 ・ 県立病院機構発足にあたり、機構独自のホームページを構築しる。 ・ 機構ホームページとリンクする3病院のホームページのイオーをすいように、各病院のホームページの整理、充実を行った。 ・ 残構用のホームページを立ち上げ、特に、機構への就職を希望するが見た事に向けて、情報発信の方表を図った。 ・ ホームページにブクセスカレンター設置し、ページ毎のアクセス数をチェックするとともに、それらを各病院においても確認可能として、更新の更なる推進を図った。 ・ 4 名病院の医療情報やトともに、それらを各病院においても確認可能として、更新の更なる推進を図った。 ・ 4 名病院の医療情報やトとかる。 4 名内院の医療情報やした、クーンを適時更新するとともに、本部においては、入れ情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。
行動計画	。 。 。	大下への開催	県民及び他の医療機関従事者 に、県立病院機構の有する医 療情報等を積極的に提供する たが、機構ホームページを適 時、的確に更新する。
区分	3 病院(企画)	(企画)	3. (画 ① )
ON	42 (6	43	44
	(2) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談 会等を開催するとともに、ホー ムページ等で健康管理・増進な どについての情報を提供するな ど、様々な方法で県民への情報 提供を進める。	1	
中期目標	(2) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを 通じて調査及び研究の成果を 現民へ情報発信し、県民の健 康意識の高揚に努めること。		

自己評価 説明	県政記者クラブへの情報提供の実施、また、テレビ、新聞においても、報道、掲載が多数あることにより、情報提供は着実に推進しており、中期目標が十分達成されている。	研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共 同研究の成果が確認でき、中期目標が十分達成されている。 ている。 より一層、患者に役立つ臨床研究の成果が期待される。
	やを 理の 開情 ク コー	★ ★ 後 適 ★
業務の実績	- 最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座や各種イベントなどについて、記者クラブへの積極的な情報提供を ・ 情し、情報を含った。 ・ 見立病院機構の現がを見めた。 ・ 見立病院機構の現がを見めたすプロけの「県立病院機構の 現況説明会」を実施し、10社11名の参加を得た。 ・ 県民の代表である県議会議員に対し「機権の現況説明会」を開催し、機構の経営状況や各病院における取組、トピックス等を情報提供、後権の経営状況や各病院における取組、トピックス等を情報提供、3とともに、県議会議員との賃見交換を行った。 ・ 改正臓器移植法の施行に伴い、こども病院が臓器提供病院と かったため、臓器移植にかかる勉強会をこども病院と県政記者クラブ共催で実施した。 配子情報提供件数 (単位:件)	・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬学教 室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解 所学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体 (実験室・ている。 (実施共同研究> (東学部】 ・「ワルファリンカリウムなどの薬剤の効き目の遺伝子との関 連」 ・「免人コブラニン投与設計」 ・「方イコブラニン投与設計」 ・「方イコブラニン投与設計」 ・「方利 書種性偏勝剤IS-1® 変効及び副作用発現に関連する遺伝子 解析研究 ・「活悪性腫瘍剤IS-1®の薬効及び副作用発現に関連する遺伝子 解析研究 ・「活動性腫瘍剤IS-1%の薬効及び副作用発現に関連する遺伝子 解析研究 ・「活動性腫瘍剤IS-1%の薬効及び副作用発現に関連する遺伝子 解析研究 ・「活動性腫瘍剤でニン投の薬物及び副作用発現に関連する遺伝子 解析研究 ・「活動性質の強力」・「活動を受けた患者の退院後2ヵ月の身体的、 ・「結腸がんにより手術を受けた患者の退院後2ヵ月の身体的、 ・「結腸がんにより手術を受けた患者の退院後2ヵ月の身体的、 ・「精陽がんにより手術を受けた患者の退院後2ヵ月の身体的、 ・「精陽がないらみえる家族の代替可能性」
行動計画	県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、 報道機関向けの情報発信の推進を図る。	<b>東立大学との共同研究を行う。</b>
区分	3.精院(企画)	4 海院
OZ	45	46
甲指棋中		(3) 産学官連携等への協力 治験や調査研究事業に積極的 に参画できるよう体制を整備し、受託件数の増加を図る。また、県北大学との共同研究にも取り組む。
中期目標		(3) 産学官連携等~の協力 富士山麓先端降康産業集積 「イントクバレー)、イロジェ クトなど、治験や産学官の連 携による研究開発事業に積極 的に協力するにと。
Ь	L	53

自己評価説明	1	医師を対象とした「研究事業費」を拡充し、研究や 海外研修に必要な予算・制度を整えており、中期目 標が十分達成されている。	平成25年度における卒後臨床研修医の確保において、 面接者数、採用者数が確実に増加しており、中期目標が十分達成されている。	資格等取得助成金申請件数が確実に増加(平成24年12月末現在申請件数21件)増加しており、また、認定看護師の取得者数は、11名増加しており、中期目標を十分達成されている。
業務の実績		・海外研修および国内医療機関での研修への参加により、研修内容の元美および医療機関との交流を図ることができた。 「梅外研修の主な実績」(総合) 世界無害学会、ヨーロッパ肩肘学会、一部外学会演習発表、立ての近面に「とも) 加をmational Learner Program 国際熱帯小児科学トレーニングコース 海外学会演習発表、文後臨床研修医にLA研修(総合) 卒後臨床研修医地域医療研修の実施(佐人間病院、旭の主病院、伊豆今井浜病院、地元の診療所、保健所等) 中の工病院、伊豆今井浜病院、地元の診療所、保護の手術研修への参加(札幌医科大学附属病院、国際医療大学三田病院等) 「ころ)心神喪失者等医療鵜築法指定入院医療機関医療評価・向上事業への参加(山口県立にころの医療セングー・他、加立行政法人国立病院機構和治病院)、フとも)一般小児科研修の実施(済生会総合病院、焼津市立総合病院、聖藤三方原病院)、フとも)一般小児科研修の実施(済生会総合病院、焼津市立総合病院、聖藤三方原病院) (こども) 一般小児科研修の実施(済生会総合病院、焼津市立総合病院、聖藤三方原病院) ・海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示した・複数のセクションを回ることができる仕組みを構築し、研修生の希望に沿ったプログラムを提供する体制を整備した。	卒後臨床研修医確保のために様々な取組みを実施している。       主な取組み)     ・卒後臨床研修評価機構の受審することにより基準を満たす研修       体制の確立 (総合)     ・研修医を対象とした合同説明会への参加(3病院)       ・研修区を対象とした合同説明会への参加(3病院)       ・研修工グラムの方実 (総合)     (単位:人)       卒後臨床研修医の確保状況     中2     H23     H24見込 H25見込       施修     12     13     H2月込 H25見込       総合     12     13     H2月込 H25月込       総合     マッチン像     12     13     H2月込 H25月込       総合     マッチン像     12     13     H2月込 H25月込       総合     マッチン像     1     1     1       採用敷 (水年度)     5     10     14     16     17	平成23年度から業務に関連する資格・免許の取得に対し、取得に 必要な受験料等の補助制度を設け、資格取得の支援を図ってい る。 (平成23年度実績:申請14件) また、確認定看離師については、取得に必要な約6月間の研修に る。 (本成24年度4月1日時点) L、取得支援を行ってい る。 (本成24年度4月1日時点) L、取得支援を行ってい る。 (単位:人) E
行動計画		○医師の技術力の向上を目指 し、海外研修等を奨励する。 ・医師の卒後臨床研修等の強 化を図り、県立病院に相応し い医療従事者を確実に確保 し、充足させる。	研修医の確保に努める。	<ul> <li>「看護師及びその他の医療従事者</li> <li>・スキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療(従事者等の研修等を推進する。</li> </ul>
区分		3.病院(総務)	3./南际 (総務)	3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5 3.5
ON	両鉄夜様がて	<u> </u>	コランド (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	存に当参ので 64
中期計画	医 上す流従とい	(1) 医療従事者の研修の充実 馬が発合病院のメディカルス キルフップセンの可能用を 合め、実効性のある製育研修用 ログラムの開発、実施を計画的 に進めるとともに、病院内にお ける教育研修体制を強化する。 また、国内外の医療機関との交 流を進める。	(2) 医師の卒後臨床研修等の充実 毎色のある研修プログラムの 開発とその推准体制を強化す る。特に、専門分野の研修医に ういては、原立病院が核となっ た果内病院間の研修ネットワー かの構築など魅力あるプログラ ムを用意する。	(3) 知識や技術の普及 医療従事者が他の機関・団体 における研修や研究等の活動に 参画しやすい仕組みづくりを進 める。また、院内研修を含め後 首研修機能については、県内の 医療従事者へさらに開放してい く。
中期目標	က	(1) 医療従事者の研修の充実 医療の高度化に対応した優 寿な医療従事者を確保及び言 みするため、医療従事者に評 成するが、選ばれる病院となる よう研修の充実を図ること。	(2) 医師の卒後臨床研修等の充実 特に医師不足に対応するた め、より多くの医師を県立病 院に確保及で育成し、県内の 医療機関への定者の以、場内の るよう、医師の卒後臨床研修 や専門研修の光実を図るこ と。	(3) 知識や技術の普及 馬内の医療従事者の質の向 上を図るため、県立病院が 培った知識や技術を積極的に 皆及させること。また、医療 従事者の養成に協力するこ と。

自己評価説明	・高い紹介率・逆紹介率を維持しており、かかりつ ・高い紹介率・逆紹介率を維持しており、中期目標が十分 達成をれている。 ・連携のツールとして情報通信技術を活用したシス テムの運用が開始され、いっそうの方実が期待でき る。	・地域連携クリニカルバスの適用推進により、関係機関との連携が行われており、中期目標が十分達成されている。 されている。 ・急性期のリハビリを充実させて、リハビリテーション病院の機能に連携させる必要がある。				・診療報酬の施設基準20%と比べて、高い共同利用 率となっており、地域の医療機関に利用されており、中期目標が十分達成されている。 ・PET権診の提携先輪診機関は4機関あり、福島 原発事故の影響で一時減少したものの、順調に利用 されている。	<ul> <li>・CT、MR1ともコンスタントに利用されており、中期目標が十分達成されている。</li> <li>・放射線科医(読影医)の確保に努める。</li> </ul>
	Example 25     ・紹介率・逆紹介率・奏カード発行とも高い水準を維持している。       Act 25     (単位:%)       Act 25     H21     H22     H23     H24見込     H25月込       市内 25     48.2     82.1     81.5     81.0     81.0     81.0       機 25     48     106.1     110.0     110.0     110.0     110.0     A       基力 - ド発行枚数     456     34.9     42.4     40.0     400       展計枚数     456     34.9     42.4     400     400       累計枚数     1,697     2,046     2,470     2,870     3,270	地域連携クリニカル 区 分	藤 柱 野 藤 満 62 36 89 70 70 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	紹介・逆紹介を相互に行い、地域の医療機関間の連携を図った。 【こころ】 (単位:%) (単位:%) (単位:%) (本立) (本立) (本立) (本立) (本立) (本立) (本立) (本立	- 原則紹介制をとっているため、紹介率は高率を維持している。 - [こども] (単位:%) (単	PETイメージングセンター共同利用     (単位 本分 大 テング・ アクー 大 同利用       区分     R21     R23     R24見込       体数     3,925     4,409     4,286     4,500       共同利用件数     1,481     1,564     1,640     1,650       共同利用率     37.7     35.5     38.3     36.7       検診件数     132     175     108     116       ※検診に出21.7~     175     108     116	RE
	かかりつけ医との連携を充実 することにより、人院から在 まで一世にものでの提供を存 供や病状急変時における対応 等が可能となるよう連携・機 能分担体制を進める。	心疾患、脳卒中 腎臓病、大腿。 象とした現行の ニカルペス適用 図る。	リスピリケー、 連携強化等、 担を推進する。 担を推進する。	地域の医療機関化し、医療支援化し、医療支援急性期、重症患急性期、重症患連携・機能分担推進する。	・地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。 る。 ・地域医療支援病院として、 施設の院外医療関係者利用促進を図る。		地域の医療機関向けにCT・MRI の地域支援検査枠を増設し、 共同利用件数の向上を図る。
NO 区分	% 02	51 総合	52	53 228	54 Z Z &	55 企 条	86
	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の 中心的機能を果たすため、県立病院 が有する医療管原を積極的に活用す るなど、必要な支援を進める。					(1) 地域医療への支援 情報通信技術を活用した遠隔 動物のネットワークへのを進 める。また、高度医療機器など の共同利用など、県立病院の施 設や設備について地域への開放 を進める。	
中期目標	4 医療に関する地域への支援 馬足の安心・安全を守るためには 地域医療の確保が不可かであるこ とから、県立病院がその支援に大 きな役割を果たし、地域の医療機 関から信頼され、必要とされる病 院となるよう努めること。					(1) 地域医療への支援 遠隔診断の実施、高度医療 機器の共同利用の促進など、 地域医療の確保と連携への支 援を行うこと。	

中期目標	中期計画	OZ	区分	型卡!基二	業務の実績	田 婦 田 帰
		2 22	ン と む か	2月1日 回 後間 医療		現内4医療機関と連携に24時間体制で画像診断を行っている。遠隔診断をリアルタイムで行えることにより、緊急の治療を行う必要がある症例に効果を発揮していることから、中期目標が十分に達成されるている。現在4 病院とのやりとりであるが、連携には相手先医療機関の設備投資が必要であり、施設拡大の障害となっている。
		88	ン さ 動力		½22年度総務省「地域情報通信技術利活用推進交付金」によ §通信システムを整備 §送信による浜松医科大学との合同カンファレンスを実施し 5。 (月1回程度) 5。 (月1回程度) 方で、当院のオペ室からカテーテル手 方イブ映像送信を行い、医療技術の紹介・連携の取組を実施	遠隔送信による映像について、診療に耐えうるクオ リティの確保は立証できたことで、中期目標が概ね 違成されている。今後の展開計画を練る必要があ る。
		29	ン ジ も 新保福	地域の医療機関等の看護師、看護部、保健師への実習研修を継続実 修・う 施する。 ままる。 ままる はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま はいまま	看護部に教育担当師長を配置し、積極的に看護師、保健師の研修・実習受入を行った。  【こども】  実習研修受入れ状況  区 分 用21 H22 H23 H24見込 H25月込 日25人数 H21 H22 H23 H24目込 H25月3 H25月3と H2	看護師、保健師の研修受け入れは、積極的に実施し、年々その数も増加していることから、中期目標が十分達成されている。
		09	リ か か	講演会やセンナーなどを開催 する。   公開 	【こども】 (単位:回、人) (単位:回、人) (単位:回、人) (区 分 H21 H22 H23 H24見込 H25見込 B	講演会、セミナーは病院の課題等にタイムリーな内容で実施していることから、中期目標が十分に達成されている。
(2) 公的医療機関への医師の派遣 協力 県立病院として、より多く の医師を確保し、医師不足の 公的医療機関への派遣に積極 的に協力すること。	(2) 公的医療機関への医師の派遣協力 カ 県立病院の医師の増員を図 り、公的医療機関への医師派遣 協力がしやすい任組みづくりを 進める。	19	続 合 <u>新</u> 金しなる	地域医療支援病院としての使 医師別 命を果たすため、医師を確保 したうえで、医師不足が顕著 な公的病院に医師を派遣す る。	医師派遣 の要望のある公的病院等に医師を派遣した。  医師派遣 実績	・医師派遣を行っており、中期目標が十分達成されている。 ている。 ・医師派遣の要望はさらに増えており、派遣元の県立病院の医師の確保が課題である。 1
		7 29	い ず も ・ 答ん	<ul> <li>・医師不足の公的病院に医師 を派遣できる体制の整備を図 るため、医師を確保する。</li> <li>医野 であるため、医師を確保する。</li> </ul>	医師形置某績(公的病院)   X	医師不足となっている公的病院に医師派遣を行い地 域医療に貢献したことから、中期目標が十分に達成されている。
		63	い う も 七 厳	市内の小児1次教急医療への応 ・静ll 援を行う。 医師 医師   医師   歴	・静岡市急病センター、志太榛原地岐敷急医療センター(平成22       年11月から)へ医師を派遣し、診療を行った。     (単位:人目)       医師派遣実績(急病センター)     (単位:人目)       区分     H21     H22     H23     H24     344       静岡市     312     325     357     344     344       志太榛原     -     21     53     52     52	静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ毎月医師を派遣し、地域の小児医療に貢献したことから、中類目標が十分に達成されている。

自己評価	<ul><li>・医師会との研究会の合同開催等に積極的に取り組み、多くの参加を得ており、中期目標が十分達成さみている。</li><li>A れている。</li></ul>	県内全城を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、救急ダイヤルとしての責務を果たした。 A また、相談件数も着実に増加しており、広報活動の成果が表れている。 以上のことから、中期目標が十分達成されている。	他団体が主催する講演会の講師として、医師や看護師を派遣し、積極的な地域支援を行っており、中期目標が十分達成されている。	学会発表や研究報告、医療情報誌等への論文掲載等、医療情報の発信を行っており、中期目標が十分 ・ 達成されている。	公開講座の開催を通じて、一般県民や県内医療機関に対して、精神医療に関する情報提供を行うことができたと同時に、当センターの取組みについてもA P R することができたため、中期目標が十分達成されている。	広報誌やホームページ等を活用し、新たな情報を 随時提供することができたため、中期目標が十分達成されている。	要請のあった鑑定入院の受け入れについては、全 て対応しており、中期目標が十分達成されている。	<	・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」における静岡県の拠点病院として、精神保健講歴、巡回相談会、院内相談会を開催したことから、中期目標が十分達成されている。
	7			国) 25 25	人 見 3 60 60	7			7
業務の実績	<ul><li>・ブライマリーケア研究会10回開催</li><li>・病診連携総会毎年1回開催</li><li>・慢性期医療を考える会2回開催</li><li>・地域医療勉強会STEP UPあおい2回開催</li></ul>	県内全域を対象とする「精神科教急ダイヤル」を開設し、 間体制で教急医療相談に対応した。 精神科教急ダイヤル件数 (単位:件) 区 分 H21 H22 H23 H24見込 H2 全相談件数 1,840 1,747 2,012 2,450	院外の講演会等に対して、職員を講師としてを派遣した。 院外講演会講師派遣状況(医師) (単位: E 区分 H21 H22 H23 H24見込 H255 派遣向数 26 37 20 25	院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位: 区分 H21 H22 H23 H24見込 H255 派遣回数 12 23 20 25	精神医療公別講座を企画・開催している。       精神医療公開講座開催状況     (単位: 12	: 広報紙「ぬくもり」の発行(年4回 発行部数 500部/回) 	i・鑑定などへの対応 - 医療觀察法の鑑定医として協力 - CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人	医療観察法による鑑定入院受入実績     (単位: 122       区分     H21     H22     H24見込     H25       こころ     6     11     8     10	「子どもの心の診療ネットワーク事業」 (Na.34参照) の一項 で精神保健講座、巡回相談会、院内相談会を開催した。 小中学校教員等を対象に実施し、開催要望が多い。 開催状況
行動計画	院内外の研修会等を定期的に 開催することに加え、協議会 等の医師会との合同開催を通 じ、かかりつけ医へ最新の医 療情報を提供する。	・精神科核急医療への対応の 充実強化を図るため、精神科 救急情報センターに専用電話 5 を設置し、24時間体制で精神 障害者及び家族からの相談に 応じ、必要な情報を提供する。	・他団体等が主催する講習 会、研究会、学会への講師派 遣を推進する。	・学会発表・医療情報誌等へ の論文掲載など、医療情報の 発信を推進する。	・精神医療公開講座の開催を推進する。	・広報誌 (情報誌・NEMS) 等 の発行、ホームページを活用 とした情報の発信機能を強化する。	・医療にかかる鑑定等の要請 への協力など積極的に対応する。		・特別支援学校や児童相談所 など教育機関や福祉機関との 連携を強化するため、検討会 や説明会などを継続的に開催 する。
区分	缆	1) 1) 10	۲۱ ۲۱ گ	1) 1) 10	1) 1) 10	11 81	l l	い い	ر ا ال ال
OZ	64	65	99	29	89	69		70	71
甲損崩中	(3) 社会的な要請への協力 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的 な要請に柔軟に応えるための仕 組みづくりを進める。								
中期目標	(3) 社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知 見を提供し、鑑定、調査、講 師派遣など社会的な要請に積 極的に協力すること。								

自己評価 説明	証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性 を重視して対応していることで、中期目標が概ね違 公生れている。 公費負担には本人による申請が必要となり、認定 には時間がかかるため、請求が遅れるケースがある 上、本人の申請が遅れた場合などの対応方法につい て検討が必要である。	ESCO事業については、その効果検証を継続し、 省エネ効果の向上を図っていることで、中期目標が 概れ達成されている。 職員に対しては、繰り返し省エネ意識を高めるよう 啓発を続ける必要がある。
		0 E しか、23ゃ
	(単位:人) 1.55 相名馬达 463 1,838 463 1,838 225 248 225 248 213 199 416 228 273 2.86 66 74	ションWGを設置し職員の省エネ行動推進の啓蒙を行ったおいて、院内照明点灯の再検討、空調の効率的運用めた。 かた。 ESCO事業によるエネルギー 平成23年度実績を平成19年度、20年度の平均消費量と、 $-8.332G$ (ギガジュール)となっており、エネー8.332G (ギガジュール)となっており、エネー8.332G (ギガジュール)となっており、エネルミ (青齢した。これにより省エネルギー法による平成22が1、に貢献した。これにより省エネルギー使用量の削減目標を達成できか1%以上のエネルギー使用量の削減目標を達成でき
	H245   331 2,   294   2,   294   40   40   40   60   60   60   60   6	:ネ行動推進   検討、空韻   200事業によ   2、20年度の   ル) となっ「   ネルギー法
業務の実績	H22 H23 1,540 1,7 286 2 286 2 190 2 113 1 216 2 3,194 3,7	職員の省エ 関明点灯の再 以入した。ES デザガジュー、 いたより省エ ベルギー使用
AIIV.	1.1 616 656 656 159 245 206 37 37	/WGを設置し ハて、院内所 SCO事業を導 34度実績を 33年度実績を がした。これ %以上のエネ
	(こども) 公費負担患者状況 区 分 IN 区 分 IN の	・エコアクションWGを設置し職員の省エネ行動推進の啓蒙を行っている。 ている。 ・特に夏揚において、院内照明点灯の再検討、空調の効率的運用 等節約に努めた。 ・平成23年度にBSCの事業を導入した。ESCの事業によるエネルギー ・平成23年度にBSCの事業を導入した。ESCの事業によるエネルギー ・平成23年度にBSCの事業を導入した。ESCの事業によるエネルギー ・平成23年度にBSCの事業を導入した。ESCの事業によるエネルギー ・平成324年度(学校23年度実績を平成19年度、20年度の平均消費量と 比較すると、 $-8,332GJ(ギガジュール)となっており、エネルギー削減に貢献した。これにより省エネルギー法による平成22年から年平均1%以上のエネルギー使用量の削減目標を達成できる。$
行動計画	・小児慢性特定疾患治療研究 事業や障害者自立支援法、児 童福祉法、精神保健法などの 実施に筋力する。	・地球温暖化への対応、省エネ対策のためエコ活動に取り組む
区分	به ش ۱۱	7.7 5
O Z	72	73
中期計画		
中期目標		

自己評価説明		・情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公 的病院の役割を果たすべく各種訓練を実施してお り、中期目標が十分達成されている。 引き締き、災害発生に備えた病院機能及び災害医療体制の充実に努める。	<ul> <li>・平成22年3月11日に発生した東日本大震災において、発災当日に、DMAT(災害医療チーム)を派遣するとともに、その後も継続的に医療状態に関する支援活動を実施しており、中期目標が十分達成されている。</li> <li>A</li> </ul>
業務の実績		・基幹災害拠点病院等として、災害時に期待される役割を果たすべく、情報伝達やトリアージ訓練、防災訓練等を定期的に開催している。 は、、東日本大震災を契機に、その時の支援活動等により得られた知見を反映させた、災害対応マニュアルの見直しを行うとともに、医療行為の継続に必要な機器の購入や設備の導入を検討している。  区分 H21 H22 H23 H24見込 H25見込 にころ 2 3 4 3 3 2 ことも 2 3 4 3 3 3 ことさ 2 3 4 3 3 3 ことさ 5 16 17 17 17 17 17	・東日本大震災に対して、県医療救護班を岩手県宮古市へ派遣した (H23005チームから通算して29チーム)。 H23.04 一般医療班4チーム (総合とこどもの合同編成) H23.04 一般医療班4チーム (総合とこどもの合同編成) H23.04~H24.03 精神医療班20チーム 毎月1~2回各4日間延52人(こころ) 県医療牧護班に対する薬剤及び診療材料の供給を行った。 H25.04~06 (総合) ・福島原発避難区域の住民の一時帰宅のためのスクリーニング業務に放射線技師を派遣した。 上ども)
行動計画		<ul> <li>・ 災害医療副練を実施する。</li> <li>・ 災事がペーニックル等の機構、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。</li> <li>5。</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>9.<!--</td--><td>災害医療救護応援班の訓練を 実施する</td></li></ul>	災害医療救護応援班の訓練を 実施する
区分		3.病院 (企画)	3病院(企画)
ON	○ 紀 神 黒 瀬	75. 415.C 11.0	7 1 2 V 2 V 2 V 2 V 2 V 2 V 2 V 2 V 2 V 2
車,場上車	5 災害等における医療教職 東海出際などによる大規模災害の 東海社の信はされる静岡県の県立病院 として、災害等への日ごろからの備 えを進め、発生時においては静岡県 医療教護計画等に基づき、医療教護 活動に従事する。	(1) 医療核酸活動の拠点機能 ロごろから実験的な災害医療 副様を定期的に開催するなど、 医療機構活動のに関係となる場所 としての機能を維持向上してい くとともに、災事等の発生時に は患者の受入れなど求められる 機能を発揮する。	(2) 他県等の医療核職への協力 災害時医療核機派遣ヘニュア ルに基づき、強やかに医療チー ムを派遣できるよう定期的な要 員副線を行うとともに、随時マ ニュアルを点検する。
中期目標	<ul> <li>5 災害等における医療教護 果日の安心、安全を守るため、医 原教護活動の拠点機能はりとと もに、災害医療チームを派遣する など医療核護に取り組むこと。</li> </ul>	(1) 医療校護活動の拠点機能 災事等に対する日頃の備え に努め、大規模災害等におけ る本鳥の医療教機活動の拠点 機能を担うこと。 機能を担うこと。	<ul><li>(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等にお いても、災害医療オームを派 はするなど、積極的に医療救 護に協力すること。</li></ul>

自己評価	平成25年度における研修医在職数は、平成21年度に比較し、大幅に増加(33名 133.7%)しており、中期目標が十分達成されている。	従来より行っていた看護学生短期アルバイトに加え、着たに開始した看護学生短間アルバイトは、建夜動帯に勤務する看護師の業務軽減の効果も期待されており、中期目標を十分に達成されている。	看護師試験の試験員に看護師長を加えたり、事務職 試験のエントリーシート選考、簡易面談の実施など の工夫を行うなど、中期目標が十分達成されてい る。
業務の実績		看護学生を対象とし、病院体験を目的とした看護学生短期アルバイトに加え、24年度より準夜勤帯における夜間アルバイトを開始	素軟な採用試験の実施 (単位:回)
七個計画	研修医の確保に努める。	・看護師・その他医療従事者 等の実習・アルバイト研修等 の受入れを推進する。	<ul><li>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜 実施する。</li></ul>
区分	3.病院(%) (%) (%) (%) (%) (%) (%) (%) (%) (%)	3.病療((((((((((((((((((((((((((((((((((((	3.病院 (総務)
ON	<b>み 発 巻 路 路 報 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録 録</b>	E	78
中期計画	6 中期目標達成のために不可欠な人材 の確保及び育成 県立病院の医療機能を最大限に発 精するため、医療従事者が専門業務 に再ってきる所制の整備、教育研修 の方集、就対環境の向上、人材確保 及び育成に最重要課題として取り組 む。 これに際しては地方独立行政法人 の特徴を活かし、前例にとらわれな い柔軟な運営に取り組む。		
中期目標			

自己評価説明	看護学生を対象にした就職説明会については、面接 した学生を採用試験の受験に結びつけることができており、中期目標が十分達成されている。	階層別に必要な研修体系を確立し、スキル向上の専門研修を実施するなど、中期目標が十分達成されている。	修学資金制度創設初年度において83人の貸与者を確保し、そのうち来年度新規学卒者31人に対する採用内定を行ったことから、中期目標を十分達成されている。	認定看護師の取得者数は、11名増加しており、中期 目標を十分達成されている。 A
業務の実績	・ 合同就職說明会、県内養成校の説明会に参加して、受験希望者・新卒者護師は同け求人誌への看護師募集記事の掲載を行い。試験養産の問知を行った。       事業学生向け就職説明会     (単位:人)       直接学生向け就職説明会     R2     R2     R3     R4     84       中へ專科     68     71     57     94     94       東立大学展開大学部     -     20     31     43     43       東部看護専門学校     -     15     32     34     34       東部看護専門学校     -     60     29     30     30       東部看護専門学校     -     60     29     30     30       東部看護専門学校     -     60     29     30     47     47       東部看護専門学校     -     68     226     285     285     285	・毎年度、研修メニューや内容を見直しながら、職員からの要望を取り入れた研修プログラムを実施している       本部主催研修     (単位:人)       区分のではないである。     122     123     135       市場を開催的     136     135     135       市(新任監督者)     22     27     28     28       市(新任監督者)     22     27     26     20       市(新任監督者)     22     27     26     26       市(本とテンケ)     26     21     20     20       市(スノタルオルト)     26     21     28     28       市(スノタルオルト)     25     31     27     27       市(株) 社会の大・オート     23     36     36       市務機員基礎所修     23     54     49     49       市務(総務担当者研修)     23     49     40       市務(総務担当者研修)     23     40     40       市(バソコン研修)     5     21     2	修学資金の貸付状況 (単位:人) 区 分 旧4決定 取消 旧24.9末 12ヶ月 (~R5.3) 34 △ 3 31 24ヶ月 (~R5.3) 14 △ 3 31 36ヶ月 (~R5.3) 19 0 19 48ヶ月 (~R5.3) 20 0 20 48ヶ月 (~R5.3) 20 0 20 計 87 △ 4 83	認定看護師の資格取得に必要な研修に年間数名派遣することにより、認定看護師の取得者数の増加を図っている。  「単位:人)  「本 方 田21 旧22 旧23 旧24 旧55以 (全 度 4月1日時点) (単位:人)  「本 方 田21 旧2 日2
行動計画	・医療従事者確保に向け、就職的明会等を積極的に開催する。 る。	・研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	・看護師修学資金制度の創設により、看護師確保を図る。	<ul><li>・認定看護師等の資格取得を 支援することにより、診療の 質の向上に努める。</li></ul>
区分	3.病院 (総務)	3.病院(総務)	3.病院 (総務)	3病院 (総務)
ON	7.0	08	81	88
画指旗中				
中期目標				

中海 自己 新田 田 紹 田 昭 昭 田 昭 昭 田 昭 昭 田 昭 昭 田 田 昭 田 田 昭 田	診療情報管理士資格取得者の効果的な人員配置など の課題もあるが、資格取得の促進等、中期目標が概 B ね達成されている。	・基本手技シュミレーター、蘇生訓練用品、臨床各科訓練用品等を実際に使うことで、医療技術の向上に寄与したため、中期目標が十分達成されている。さらに医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。 ・外部利用の促進のためには、広報等の戦略を練るA、要があるが、専任の管理者等がいないため、体制整備が必要。
業務の実績	人事異動の際に、業務に必要な資格の取得状況などを考慮した うえで、適切な人員配置を目指している。 また、事務職員について診療情報管理士の資格取得を促してお り、取得後の活用を目指している。	・研修医や新人ナースは必ずメディカルスキルアップセンターを するなどセンターの利用を取り入れ始めている。コレーターを義務と するなどセンターの利用を取り入れ始めている。コレーターを義務と かられたのよいアンドンターの利用を取り入れ始めている。コレーターを義務と かられたのよいアンドンターの利用を取り入れ始めている。コレーターを義務と かられたのよいアンドンターの利用を取り入れ始めている。 かられたのよいアンドンターの利用を取り入れ始めている。 かられたのよいアンドンターの利用を取り入れ始めている。
行動計画	・院内における資格取得者の活用を促進する。	・メディカルスキルアップセンターの活用の促進を図る。 シターの活用の促進を図る。
区分	3病院(総務)	<b>邻</b>
O Z	83	84
甲類計画		
中期目標		

第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営 の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。

自己評価 説明	・各病院に権限を委譲し、迅速な意思決定ができる 体制が整ったため、中期目標が十分達成されてい る。		新たに法律事務所へ回収業務を委託することで、これまでの支払案内等所に加えて、個々の債務者に応じた、きめ細かい交渉や踏み込んだ調査、そして層促から最終的な法的措置まで含めた。まりま物性のある管理回収業務の実施が可能になったことから、中期目標が十分達成されている。	新規に施設基準を取得するなど、診療報酬の適正請 実に努めており、研修の結果が活かされていると考 えられるため、中期目標が十分達成されている。 医分 形1 H22 H23 H24 H42: (単位:件) 医分 H21 H22 H23 H24 H25: (単位:件) 医う 10 32 4 15: (単位:件) ことら 11 21 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	、 型な A	A 河 図 式	~ S & C — W A A A A A A A A A A A A A A A A A A	機 "
業務の実績	・病院現場のニーズに迅速に対応するため、会計規程等により、 支出等の決数権限を大幅に病院を多任している。 ・理事会、運営会議、企画調整会議、経営担当課長会議、総務担 当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有 化を図るとともに、予算の補正等に緊急な課題に対する即時的な 対応を行っている。	後・理事会や病院運営会議において、四半期毎の経営状況を分析 ・ L、報告を行った。 ・ 理事会においる審議・報告事項や経営状況を3病院合同幹部会 3 議において各病院の幹部職員に毎月報告し、周知を図った。 ・ 新規採用職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の職成を図った。 ・ 原内コミニュケーションシメテムを通じて、理事会資料等の経営情報を全にはカーション・メデスを通じて、理事会資料等の経営情報を登りにないても、病院の経営状況を盛り込み、意識醸成を図った。	平成21年度から債権回収会社へ支払案内等の業務委託を行っていた。 未収金対策をより強化するため、平成24年度から法律事務所へ債権管理回収業務を委託した。 (単位:千円) 本収金回収実績(委託分) 12 12 12 12 12 12 12 13 14 13 14 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	(H21) 藤貴を対象として保険診療に関する講習会を東海北陸厚生局の職員を講師に招いて開催した。 目を講師に招いて開催した。 (H22) 藤貴を対象として4月7日に「診療報酬の心得」、2月23日に「保験診療と薬剤」というテーマで研修を実施した。 (H23) 職員を対象として4月11日に「診療報酬の心得」、10月13日に「保険診療の留意点について~査定のポイント〜」、3月13日に「保険診療の留意点について~査定のポイント〜」、3月13日にた。 「H24] 職員を対象として4月3日に「診療報酬における10の心得」9月27日に「当院の査定注意点について」というテーマで研修を実施した。 (H25)
行動計画	組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。	毎月の理事会や病院運営会議 において、確営状況を報告・ 分析するともに、それらの 経営状況の職員への周知を図 る。	未収金の圧縮を図るため、未収金の収納創奨等について外 収金の収納創奨等について外 部の専門会社を活用する。	沙療報酬の適正請求にかかる 研修会等を実施する。
区分	3病院 (総務)	3病院 (企画)	3病院 (経営)	3涛院(企画)
ON	85	98	28	88
<b>■</b> 程 <b>第</b> 中	第2-1 <b>橋素で効率的な組織づくり</b>	2 効率的な業務運営の実現 果立病院が有する人的、物的等医 素質の表する人的、物的等医 が率的な業務運営に用するため、常に 効率的な業務運営に用りる組むとき に、経営情報を共有し職員の経営意 職の職員が専門性を共力に発揮でき るよう体制を整備するとともに、業 務量に応じた柔軟な職員配置に努め る。 ・診療報酬など収入の適正な確保を 図るとともに、業務の集が化や外部 要託、多様な契約手法の活用などに より、効率的な業務運営に努める。	・ A.C. 体室同様を記載するとともに、、適時適切な措置を購出られるよう体制を懸備する。また、経営情報を整備する。また、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。	
中期目標	1 <b>簡素で効率的な組織づくり</b>	2 効率的な業務運営の実現 県立病院が有する医療資源の有 が活用や業務の見直しを常に行 い、効果的で効率的な業務運営の 実現を図ること。		

The Figure	自己評価説明	診療材料費についてに み」、「3 病院品目歩道 棒」等について、診療・ いもの、取組効果の大き 図った。 また、薬品費について また、薬品費について 年において最も高い値号 いずれも医療従事者と かがても改善が図れてする。 れている。	医療機器の購入金額の低減のみならず、保守費用 に関しても、3病院一括化及び複数年契約化等によ り費用節減を図った。 機器購入・保守に関してもトータルコストの意識 改善が図れており、中期目標が十分に達成されてい る。	一括化、複数年化により、各契約のスケールメ リットによる費用領減とともに、機構内の事務の効 年化を図ることができた。 モニタリングの導入により受託業者の意識を向上 させると共に、事務職員以外の医療従事者も委託業 務への質の評価に対する意識が高まった。 一括化、複数年化の改善とし段格し、切替えの際 にも導入時と同本権もしくはそれ以上の効果を継続 できているため、中期目標が十分達成されている。	・システムを活用した経営分析については、データ の精度向上のため随時見直しを行っている段階とい うこともあり、今後の課題であるが、システムの定 期的な適用という点で一定の成果をあげており、中 期計画が概ね達成されている。
1		,	7	7	æ D
1	業務の実績	・診療材料費の節減に向けて、平成21年度に策定した「診療材 に関する理事長指示」に基づき、各病院において、診療材料に わる職員の意識の徹底を図っている。 ・診療材料単価低額を図るため、医療従事者と協働した購入材 の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の節減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品 メーカー・一 町業者制度を導入するとともに、機構に薬品を納 する卸業者の数の見直し等により値引率向上を図っている。		・委託費等の節減を図るため、3病院(もしくは2病院) 性の高いもの、金額の大きいものを中心に、契約の3病院 化、複数年契約化を進めてきた。       イングを行い、業務の質の維持・向上を図っている。       エタリングを行い、業務の質の維持・向上を図っている。       医分 H21 H22 H23 H24.5 H25 L20       全分 H21 H22 H24 H24.5 H25 L20       本数料 1(1) 1(1) 2(2) 2(2) 2(2) 3(30) + 数(3) - 3(3)	
1	行動計画	診療材料費等の節減のための対策を実施する。	効率的な医療機器購入及び管 理のための対策を実施する。	複数年契約や集約化等による 参託の見直しをする。 ①契約の複数在化 ②契約の3病院一本化 ③委託業務の包括化	より効率的で安定的な経営を 維持するため原価計算への取 組を推進する。
区 8 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	区分	3病院 (企画)	3病院 (企画)	3病院(企画)	如線
型	NO	68	06	16	92
中 章					
	中期目標				

自己評価説明	<ul><li>・毎年度実施している採用診験により、段階的にプロバー職員を採用して計画人員を確保していることから、中期目標が十分達成されている。</li></ul>	・中ら・絡・員 る総配れ合体窓の以。 合言、病制口利と	本部・病院で共通性の高い人事・給与、予算・決 算事務において、比人共通マニュアルの作成、もし くは3病院事務部担当者連絡会の開催により、病院 間業務の平準化が図られており、中期目標が十分達 成されている。	業務改善に不断に取り組む組織風土を職成するため、組織及び制度構築をし、第1期中期計画期間中は毎年の付を超える改革改善成果が発表されるとともに、収割内容を院内コミュニケーションシステムを通じて全職員に公開、また、優秀な改善提案を表彰するとともに提案内容を発表する機会を設ける等組織風土職成の基盤を整えたことで、中期目標が十分達成されている。
	77 (	、に も名 、 A	<b>★</b>	を 用 6 、 「
業務の実績	・事務プロバー職員の確保のため、追加の募集を行う等、法人化 のメリットを活かし未載に対応した。 ・説職情報サイトンの情報掲載、合同鼓職説明会(東京、静岡) へ参加して、就職希望者の拡大を図っている。 ・大学就職担当者との意見交換会(県主催)において、求人の周 知を行い、就職希望者の拡大を図っている。 ・県内大学(静岡大学、県立大学)の学内説明会に参加して、就 職希望者の拡大を図っている。 事務プロボー職員の採用実績 区分 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	・平成23年3月から総合病院の総務事務の一部と本部で行っていた3 病院の給与・共済・族費等の業務を集約化し、総合病院内に、職員センターを設置した。 ・総合病院の職員窓口として届出・相談機能の充実を図るとともに、提中化により職員の専門性を高めながら効率的な業務運営を行っている。 ・病や間や共済等関係機関との定期的な連絡会や研修を実施し、日清な事務の推進を図っている。	・業務の標準化、事務職員の円滑なプロパー化に資するため、事 務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施してい る。 ・3病院業務別担当者連絡会(研修会)を実施している。 ・本部、3病院事務部における担当部署毎に業務の洗い出しを行い、優先順位の高いものからマニュアル化を行っている。 ・院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、共有化している。(定期的に更新を行う仕組みを検討中)	・理事長をトップとした「改革改善委員会」を設置した。 ・各病院において、それぞれ実施されている業務改善への取組を一元化し、全職員が一九となって取り組みは組みを構築した。 ・登覧取組については、院内コミュニケーションシステムを利用した取りまとめを行い、誰もが積極的に参加でき、また他職員の改善集を確認できるよう仕組みを整備した。 ・制度構築後は、「改革・改善推進制度」に基づき、引き続き、職員が改革改善に進んで取り組めるよう促した。  区分 17 17 19 23 23 23 こととも 24 17 57 60 63 63 23 ことと 24 17 17 19 23 23 ことと 28 27 35 32 32 ことと 28 27 35 32 32 23 ことと 28 27 35 32 32 23 ことと 28 27 35 32 32 32 23 23 23 24 4 31 118 133 134 134 134
行動計画	プロバー職員の計画的な確保により、事務部門の業務に関する専門性・継続性を高める。	(機員センター業務の一元化	業務マニュアルの作成	院内コ、ニュケーションシス ラムを活用するなどして、職 員が経営・業務改善を消時提 案できる体制を整備する。
区分	3病院(総務)	3病院(職員)	3病院(企画)	3.病院(企画)
ON	68	94	9 5 5	96
	3 事務部間の専門性の向上 経営管理機能を強化するため、法 人相句の事務職員を採用するととも に、専門性の向上に計画的にあり組 む。併せて、急速な経営環境の変化 にも迅速に対応できるよう病院運営 や医療事務等に精通した人材の確保 に努める。			4 業務改善に下断に取り組む組織風土 の際成 業務の改善改革への取り組みを奨 励し、その活動を積極的に評価する とともに、職員の意見が気映されや すい風通しの良い組織運営を進める など、職員の意欲が高い活気に溢れ た病院づくりに取り組む。
中期目標	<ul> <li>事務部門の専門性の向上 事務部門において、病院特有の 事務に精通した職員を確保及び育 成することにより、専門性の向上 を図ること。</li> </ul>			4 業務改善に不断に取り組む組織 上の職成 上の職成 業務改善に向けて、職員の意欲 を高め、積極的な参画を促すな ど、継続的に業務改善へ取り組む 組織風土を醸成すること。

自己評価説明	勤務制度の改正は、独立行政法人化以前では、条例 等の改正が必要であり、迅速な対応は困難であった が、独立行政法人の利点を活用し、勤務制度の変更 について迅速かつ柔軟に実施しており、中期目標が 十分に達成されている。	優秀な医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保膏所の整備を着実に進めたことで、中期目標が十分達成されている。
	で	所 健た4 を2mm 宿事 に江 保 ▼
業務の実績	看護師2交代勤務については、平成22年度に総合病院においては全病院 	・総合病院及びこども病院の医師宿舎・看護師宿舎、院内保育所の整備に向けて、利用者の意向に配慮した施設整備を目指し、一整備表面的で、利用者の意向に配慮した施設整備を目指し、一整合病院の医師・看護師宿舎(世帯用)のリニューアルを実施した。 総合病院の医師・看護師宿舎については、当初計画の敷地内建設を中止し、
行動計画	来載な職員採用や多様な雇用形態・勤務形態の導入を図るを職・動務形態の導入を図る	・総合病院及びこども病院の 医動宿舎・看護宿舎の整備を 因る。 また、総合病院及びこども 病院の院内保育の拡充に向け た検討を実施する。
区分	3病院 総務)	3%院(企画)
O Z	26	86
甲指射中	5 就労棄域の向上 仕事と生活の調和に配慮した雇用 形様・関係時間の設定、時間外勤務 の縮減など労働時間の適正な管理を 進めるほか、職員宿舎や院内保育を 方実するなど、働きやすい環境づく りを進める。 また、職員の努力が報われる給与 また、職員の努力が報われる給与 また、職員の努力が報われる給与 また、働きがいを実感で きる仕組みづくりを進める。	
中期目標	<ul> <li>・ 教労環境の向上</li> <li>・ 競力区療徒等者を確保するため、</li> <li>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</li></ul>	
	<u> </u>	66

自己評価	医療設量の効果的な活用の、影療報酬である医師 看護師の無職等の氏下輪 標が概む違成されている。	独法化前はほとんど配置されていなかったコメディカル補助職員を配置し、免許・資格を有していなくても可能な業務を担い、業務の効率性を向上させており、中期目標が十分に達成されている。	[総合] 職員のみならず、患者の利便性も同時に向上し、院内環境改善を進展させたので、中期目標が十分達成されている。
	м	₩	77 曲 A
業務の実績	医療秘書及び看護助手、精健支援員を配置して、医師、看護師の業務の配置           医療秘書の配置           (単位に・人工)           (単位により)           (本の業務)         (100         (200<	ロスディカルが専門業務に集中できるように、周辺事務業務を担う補助職員を積極的に配置した。  助手業務の拡充(各年度4月1日付け)  麻剤助手	【総合】平成22年度には院内カフェ、平成24年度にはレストラン、新保育所、コンピニをオープンさせた。また、平成22年度に医局の集中配置、各寿棟カンファレンスのJ病様1室化、平成23年度には職員休憩室を地階から環境の良い6階に移した。
田 神神八	・医療従事者の事務的業務の 軽減を図り、本来業務に専念 できる環境を整備するため に、医療秘書・助手等を効果 的に配置する。	・有期雇用職員の随時・弾力 的な採用・配置により、業務 多忙化の解消を図る。	・食堂の改修、カフェテリア の設置等、就労環境の改善に 向けて院内施設の充実に向け て検討を進める。
区分	8. (表 (表	8. 表 系	4 病 院
ON	6 6	100	101
<b>■</b> 提解中			
中期目標			

第4 財務内容の改善に関する事項	
業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、	中期目標期間を累計した損益計算におい
~	

自己評価	說明	経常収支比率は、5年間累計で103 7%となる見込み で100%以上を達成するとともに、経常収支の累計 額は、中期計画累計の976,064千円を大幅に上回る 6,584,319千円となる見込みで、中期目標が十分達 成されている。
(東) 中 公 然 希	大なが大	本
	任動計画	着規施設基準取得などによる 増収への取組分と業務見直し による支出節減への取組みを 効率的に進めることによる を年度での3病院黒字化を図 る。
\$\frac{1}{2}	3	3病院(経営)
O.V.		102
日本年日		第3 子算 (人件事の見積りを合む。)、 収支計画及び資金計画 「第2 業務運営の改善及び効率化に 関する目標を達成するためとるべき措 直」で定めた計画を確実に実施すると により、業務運営の改善及び効率化を進 めるなどして、中期目標期間を累計した 損益計算において、経館収支比率を 100%以上とすることを目指す。
車工器士	I R	第4 財務内容の改善に関する事項 業務運営の改善及び効率化を進める などして、中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。

第5その他業務運営に関する重要事項 県立病院が県内医療機関の模範的役割を果たすため、法令等を遵守し社会規範を尊重するとともに、法人運営の透明性の確保に努め、業務内容や業務改善等の情報発信に積極的に取り組むこと。

- (			and And a common
	自己評価	説明	独法化後3年間の会計監査人監査においては、決算 等について適正との意見を受けており、また各種監 重の実施により、その都度事務改善を図ることによ り、内部統制の維持・強化に努めているため、中期 目標が十分達成されている。
	業務の実績		【会計監査人監査】 決算や会計処理等について、監査法人の年間延150日程度の実地 監査等によるチェックを受け、会計基準に基づく適正な会計事務 の執行に努めている。 【各種監査】 【各種監査】 【の財政的援助団体等監査(年1回)、監事監査(年2回)、 県の財政的援助団体等監査(年1回)、監事監査(年2回)、 内部監査(年1回)の実施により、内部統制の維持・強化を図っている。 【情報発信】 財務諸表や業務実績報告書をHPで公表し、透明性の確保と業 務内容や業務改善等の情報発信をしている。
		行動計画	<ul> <li>・会計基準に基づく適正な会計事務の数行</li> <li>・各艦監查の集施による内部 整備の維持・強化</li> <li>・業務実績の公表による業務 改善等の情報発信</li> </ul>
	₹ Z	K N	3病院 (経営)
	7	2	103
	車場開中		
	単二	I F	第5 その他業務運営に関する重要事項 県立病院が県内医療機関の模価的役 割を果たすたか、法令等を遵守し社会 規能を導重するとともに、法人運営の 透明性の確保に努め、業務内容や業務 改善等の情報発信に積極的に取り組む こと。
,		6	

# (参考) 用語解説

用語(50音順)	解説
АСТ	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠状動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと解釈している。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(DMAT:ディーマット)。
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
НСU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	I CUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m – E C T	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩 剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調 症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法 とされている。
MFICU	MFICUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、 前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母 体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活が送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要があり、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
РСІ	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレーターというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。

用語(50音順)	解説
PET	PETとは、Positron Emission Tomography(ポジトロン・エミッション・トモグラフィー)の略で、PET検査とは、陽電子(ポジトロン)を放出する放射性核種(ポジトロン核種)で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
PICU	PICUとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、全国で4か所しかない専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。 (※全国4か所:静岡県立こども、国立成育医療センター、長野県立こども、兵庫県立こども)
PSW	PSWとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書(東海北陸厚生局長指定、第0004号)により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書(医師事務作業補助者)	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業(診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等)並びに行政上の業務(救急医療情報システムへの入力等)への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修 学資金(月5万円)を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期 間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り 換えをするための資金(返還資金)を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
キャンサーボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者(医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等)にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。

用語(50音順)	解 説
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。 クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用(白血球の減 少)が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
コーディング	疾病や手術、検査などをコード化する仕事。 最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の 制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登 録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコー ディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が 要求される。 疾病のコーディング:膝の関節炎⇒M13.96(Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を 示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す)
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
ジェネリック医薬品 (後発医薬品)	特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。
	・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された者及び緊急入院した救急患者の数が占める割合のことである。 紹介率=(初診患者のうち紹介患者数+救急患者数)÷初診患者数×100
紹介率・逆紹介率	・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したものの数(同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり)と、初診患者の総数との比較のことである。 逆紹介率=逆紹介患者数÷初診患者数×100
初期臨床研修医 後期臨床研修医	免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医(広義,1-5年目程度) = 研修医(狭義,=前期研修医,1-2年目) + 後期研修医(3-5年目程度)としていることが一般的である。 一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。
心理教育・家族教室	心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。 患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。
心理・社会的治療	精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。 デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。
診療情報管理士	診療情報管理士とは、四病院団体協議会(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会)および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。 主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。

用語(50音順)	解説
地域医療支援病院	1997年(平成9年)4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分の ひとつ。 目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割 分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。 (承認要件) ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・他の医療機関からの紹介患者数の比率が80%以上であること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方(ものの考え方や受け取り方)の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。